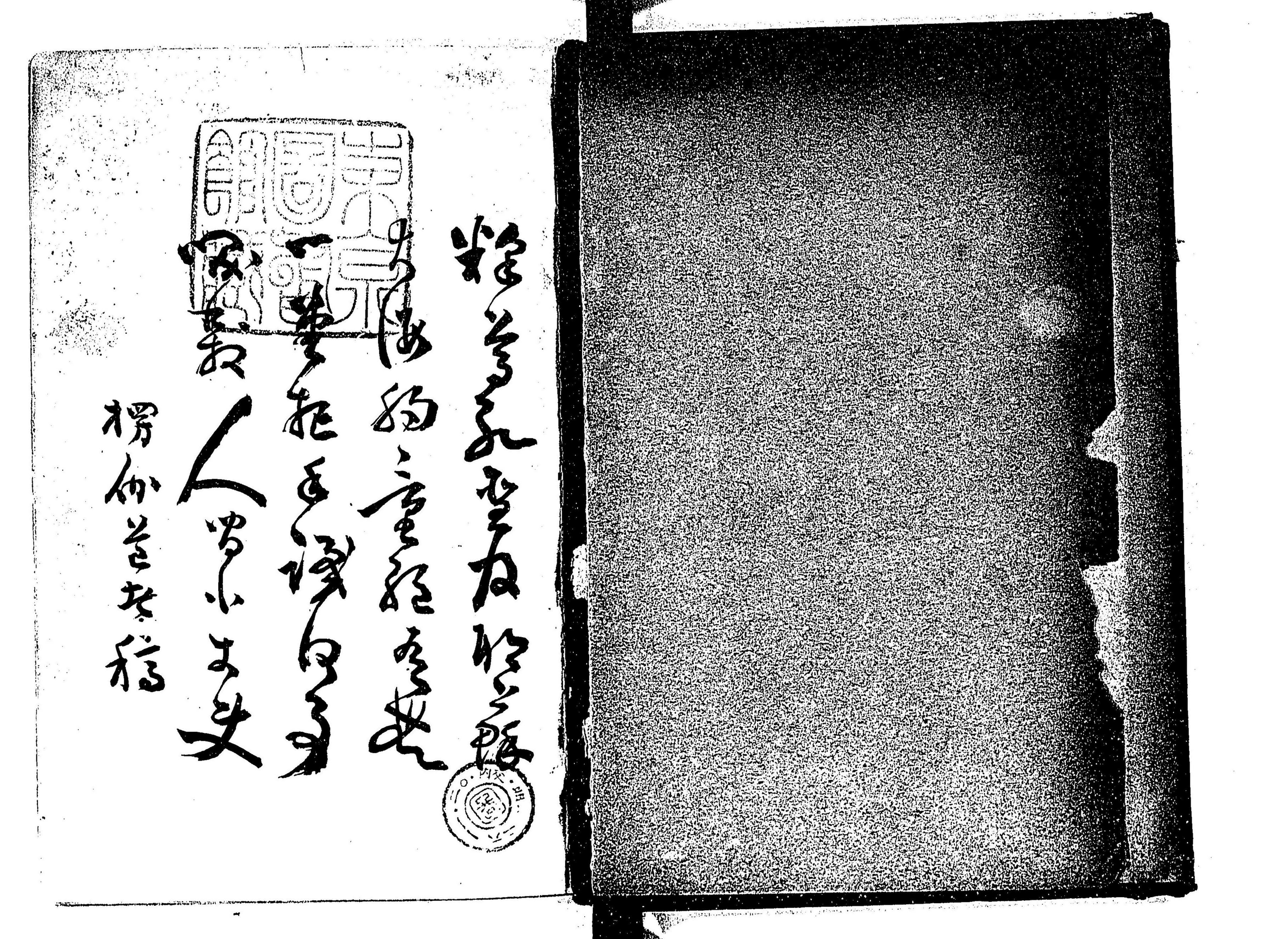

例言

一此書は、通譯者野村洋三氏をして、毎日大會場に於ける各名士の演說を聽取せしめ、隨て得れは隨て記し。只其要領を掲くるを主となす、故に敢て文字を飾らす、章句を藻にせす、

一此書各名士の演說に對し、一々論評を試みんと欲せしか、羈途匆々、細考の餘暇を得す、他日或は紀行雜錄とゝもに、之を公にするてあるへし、

一此書は唯一片の土産として渡米贊助諸君に頒つ者なり、敢て發賣を許さす、

明治二十六年十一月　日　　著者識

歸朝忽忙、草座未た暖かなるに暇あらす、且く某所に於て演說せる大要筆記を以て、本篇の序言に代ふ、

諸君。私か今日米國シカゴ府に開設せし閣龍世界博覽會附屬萬國宗教大會に出席して。上み佛天の加護と。下も有志諸君の贊同とにより。未熟なから佛の使命を全ふして玆に歸朝し。今日愛度諸君と喜眉相接するは。私か半生の履歷中。尤も得意、愉快、幸福等の文字を以て胸中に充たされたる一大光榮の日と思ふ、

抑も今回の世界博覽會は。曾て倫敦巴里費府維也納に開設せし世界博覽會よりも。尙一層宏大の規摸にして。

實に十九世紀物質的文明の華を以て織り出されたる一幅の活畫とも見て好からんか。試に此博覽會の經費幾許と問へは。實に三千萬弗餘の金額也と云ふ。左もありなん。加之諸種の建築中。工藝館一棟を立つるにも。三百人の人命を損したりと聞かは。誰か亦物質的文明の高價なるに驚かさらん。看よパリス及ミエニツクの工藝場は言を待たす。遠きはアウストラリアの牧場より。堅氷嚴しく鎖せる北洋のエスキモー人。及ひデルハイダマスガスの巧妙なる技術家。又セツフイルドゼチヴモスコーの工場の如き。以太利の大理石坑の如き。ケー

プコロニーの駝鳥園。及ひブラジルの鑛物の如き。皆此博覽會に向て競爭推し寄せ來れり。豈是のみならんや。亞弗利加の深林に於ける猖獗なる猛虎巨象の獵人。及日本支那の諸都會に於ける優美なる美術家。リヨンの絹布職工及カシミーアの肩掛製造者。ケンシントンの意匠家。ブルツセル及南阿米利加に於ける印土種族の「レース」職工。日耳曼の大砲製造人。墨西古の銀鑛採掘人。クライド及マツケンジー河の船大工の如き。西より、東より、南より、北より。皆目を張り踵を接して閣龍博覽會の大舞臺に飛ひ躍り叫ひ震へり。若し閣龍翁をして地

下に靈あらしめは。此盛事に對して喜はんか悲まんか。
蓋し大喝一聲、以て此博覽會を祝するならん。
嗚呼ミチガンの湖水は。纔に三百里に過きす。然れども
一たひ此湖畔に立て之を望めは。アルプスの巍峩たる。
ピレニースの突兀たる。ヒマラヤの雪皚々たる。富士山
の君子風なる。皆影を倒にして茲に浸し來れるかと想
見せらる。シカゴ府百五十餘萬の人民は主人役となり
て。拮据經營、世界各國幾萬の御客を相手に接待應答。是
れ日も足らすとせり。足一たひ博覽會場を蹈まは。夜と
晝との分界を忘れん。花と月とは同時に賞せられん。人

に上下なく。唯働ひて錢を取る者。是れ自由國の帝王な
らんか。
然れども吾釋迦牟尼佛は宣へり。圓覺伽藍に安住し。法
喜禪悅を以て食となすと。又他教の聖書にも之れ有り。
「人はパンのみにて活く可きにあらす」と。又曰く。「形あり
見るべきものによりて生活す可にあらす」と。嗚呼難有
の金言にあらすや。凡人間として只物質的文明にのみ
心醉し。衣食住生活の程度を高むる許りにして足るを
を知ると云はゝ。是大なる謬りならん。何となれは。物質
的文明は、唯人間の外部を粧飾するに過きされはなり。

肉躰的快樂は、屢、生住異滅の變動を免れされは也。而し
て米人の慧眼なる。早く茲に感する所ありて。今回閣龍
博覽會の好時機を利用して。精神の寶珠庫、靈界の水晶
宮なる即ち萬國宗教大會なる者を啓建せり。此擧や實
に歴史ありて以來未曾有の出來事と謂ふへし。是より
先き此大會を發起せんとして、彼れ有爲宗教者か嘗め
し艱難は、果して如何なりしや。恰かも衲等か此會に列
席せんと欲する前に。或小部分の偏見者、頑愚者より買
得し固陋なる反對よりは。尚幾倍の有力なる反對あり
しにも拘はらす。終に此大望をやつてのけたるを回

想せは。教の異同に論なく。同情相憐むの感に堪へさる
なり。」
然り。此會の過去には一方に於て守舊家の反對ありし
と同時に。他の一方には有名なる政事家グラツトスト
ン。大詩人ホイツチヤル。及デニソン等を始とし。諸宗の
僧正、博士、狀師、新聞記者、金滿家等の此會を助成せしも
の。其幾多なるを知らす。斯くて宗教大會は去る九月十
一日午前十時を以て、花々しくフロント湖畔なる美術
館に於て洞開せられたり。此日各國より特に來會せる
宗教家の派別を略擧すれは。神道の實行教。孔子教。波羅

門教の諸派。回々教。耶蘇教の「ローマンカゾリック」「ギリシア」「プロテスタント」の諸派。猶太教。錫嵩蘭羅の佛教。日本の天台、眞言、禪宗、眞宗の委員にして。其數百餘名。其人物を問へは。皇族あり、貴族あり、博士あり、教授あり、大僧正あり、僧正あり、貴婦人あり。蓋し皆一方の碩德大家なり。而して此會堂に參聽せる人士は。只見物的に集れる者にあらずして。皆各々會員たるの資格を有し。初日より十七日間。一日も退席せさる所の熱心なる護法家、愛理者にして。其員數凡そ六千人なりし。」

是の如くにして開會十七日間は。演說、質問、懇話、禮拜、夜

會、訪問等和氣靄々の中に各宗特有の眞理を交換請益して。一星事の此會を魔撓するなくして閉會を告けしは。亦之を佛天の加護に歸せすんはあらす。復之を內外有志諸君の力に還さすんはあらす。」

然り而して此大會か世界に向て如何なる問題を解譯せしかと云ふに。其大要は神佛の性質、宗教の組織、世界の諸經典、宗教及ひ家族、宗教と諸科學との關係、宗教と道德との關係、宗教と社會問題、宗教と國家、宗教と人類の愛。世界人類の宗教的結合等なりとす。是等の問題は。追々新聞雜誌の上に於て。吾等の意見をも吐露すると

あるべし。」

特に吾等が今回の大會に於て。少くとも內外人の注意を惹き起せしものは。日本帝國民が尊皇愛國の精氣に富めること。佛教が如何なる程度まで日本國民の精神を支配して。古今の國主に關係を及ぼしたること。佛教は世界的宗教にして而も現在の科學哲學と密合せること。大乘佛教は非佛說なりと云ふの妄想を打破せしこと。紐育の豪商ストロー氏が大會場に於て佛教の歸敬式を行ひしこと。在米日本の有力家が衲等の爲に二回の佛教演說を博覽會場內に開きしこと等なりとす。

今にして思ふ。若し此大會を機として吾日本佛教十二宗三十八派より、せめて一箇半箇つゝの有力家を推して、旗鼓堂々、一齊に此大會に臨席したらんには。定めて放光動地、天下の觀を改むるの快事ありしならんと思ふ。吾等は只佛の使命を全ふして歸朝せしのみ。大に公衆に對して其功を披露すと云はず。」

衲は今此壇を下らんとするに臨て。尙一言の諸君に報すべきあり。古語に曰く。齊一變せは魯に至らん。魯一變せは道に至らんと。蓋し知言なり。因て思ふ。道德家一變せは耶蘇教に入らん。耶蘇教一變せは佛教に入らんと。

諸君以て如何となす。」

萬國宗教大會一覽

釋宗演著

日本明治廿六年九月十一日は。即ち萬國宗教大會開設の當日なり。余等一行四名。正服を着し。馬車貳輛に乘じてミチガン湖畔レーキフロント園内の美術館に赴く。聽て導かれて設けの會場コロンビヤンホールへと。二人づゝ手を取り班列して進む。先鋒は峨帽を戴き赤衣を纏へる「ローマンカゾリック」のカーヂナル、ギッボン大僧正にして。會長ボンヂー氏之を擁護し。次に婦人館館長パ

ーマー女史及婦人會會長チャーレス、ヘンローナン女相并て進む。夫れよりニュージーランドより來たりし大僧正。レッドザンチー島の大僧正ヂオニシヤスレータス。シカゴ市のバッロース氏。大僧正フリーハン氏。伯林府の伯爵エーバンストーフ氏。スウーデンの博士カールボンベルゲン、大學教授チヤハラー氏。錫蘭のエチ、ダンマパーラ氏。印度のモーゾンタアー。シカゴ市のオーガスタナユーピン、レヴアレキサンダ、マツケンジー。支那一等書記官ポンカンユー等の諸氏。次に余等一行及各宗を代表する者。殆んど二百有餘人。場に入るや。拍手喝

采。聽衆大凡五千七八百名。余等宗教代表者が。一壇高き處に列をなすを俟て。盛粧せる貴婦人淑女の一隊は。洋洋湧くが如きの樂聲に伴ひて。萬福の源泉たる神を敬拜せよと贊美歌を唱ふ。此間聽衆及代表者總起立。唯余等及ダンマパーラ氏等一行は起立せざりし。式終るや會長ポンチー氏開會の主意を述ぶ。其辭に曰く。

「諸君。我亞米利加は自由國なり。殊に宗教的自由國なり。諸君。物質的文明には先後あるも。吾人が精神的世界は。其宗教、人種、國土、風俗の異を見ず。正さに一堂の下に生育せし兄弟の如く。相提携して以て安心立命の地を求

めざる可らず。今や時來れり。余滿幅の赤誠。諸君か贊助の大功を謝し。併せて茲に世界未曾有の此大珍事がシカゴ府に開かれたるを祝す。

氏は常に各宗派代表者を紹介するの勞を取る。次に登壇せしは委員長ジョン、エッチ、バーロス氏なり。氏述べて曰く。

「諸君。今回の大會合は。夫の坊間に有觸れたる演說會を以て見るおかれ。實に歷史上特筆大書すべき千歲不朽著明の出來事と云ふべし。秀山明媚の日本より。地味沃饒の支邦より。水色淸冽の印度より。錫蘭より。暹羅より。

地震澤山のザンヂ島より。學術の淵藪たる獨逸より。文明の中心たる佛蘭西より。吾人の母國たる英國より。我愛する合衆國自由聯邦より。無慮十六宗の代表者の來り會して。眞理の研究に從事するもの。豈空前と謂はざる可けんや。始ある易く。終ある難し。吾人は幸に四海同胞兄弟たる大方諸君の贊助を經て。茲にこの大會を開くを喜ぶ。諸君願くは一宗一派の偏見を捨てゝ。互に敬愛し。眞理の生命をして健康ならしめよ、安固ならしめよ。聊か歡迎の意を表し。併せて諸君の萬福を祈る。

一言一句終る毎に。拍手喝采。次で大僧正フィーラン氏

歡迎文を讀む。其意に曰く。

各國代表者諸君及來會滿場諸君よ。今や世界各國より來會されたる賢明なる代表者は。決して空手博覽會見物の爲めに來れるに非ず。彼等は各々眞理と云ふ貴重なる贈物を持來れり。蓋し各宗互に說く所を異にすと雖も。一として相愛を說かざるものなし。此相愛の一念。以て四海同胞の一大家族を形造るを得べし。玆に諸君の健康を祝し。併せて本會の成効を祈る。」

又喝采を博す。次に登壇せしはカージナルギッボン氏にして。赤帽上の赤總を振り立てゝ曰く。」

諸君よ、世界各宗敎は。各々其取る所の方針を異にす。然れども。苟も義を重じ。愛を博し。德を愼むを敎へざるものの。一として之なきなり。此博愛主義は。社會組織の一大要素となる。此博愛以て各派の偏見を破り。頑迷を醒すの利劍となる。云云。」

次にオウガスタ氏の祝辭あり。次て登壇せしは博覽會會長ハイギボーサム氏にして。博覽會を代表して曰く。

敢て卑辭を以て各國來會の代表者諸君の健康を祝す。此幼稚なるシカゴ市に於て。世上未曾有なる精神的會合ある。實に喜ぶべきなり。殊に今回閣龍博覽會の一大

歴史上に燦爛たる一段の光輝を副ふるもの。豈博覽會會長として祝謝せざる可けんや。」

次に顯はれしはアレキサンダーマツケンジー氏にして。ピユリタン宗代表者なり。」

諸君。當壇に立つ各學者、雄辨家は。皆な其代表をる所のものあり。而して余は當亞米利加建設の最も古き殖民者を代表する者なり。諸君。身軀黑漆、服裝粗野。加ふるに訥辨の故を以て予を嘲笑する勿れ。余の如きは百姓宗教の代表者として敢て恥ぢずと自ら信ず。而して此百姓種族は。業既に亞米利加の獨立共和國を建設して。今

日の盛大を致せり。此の殖民者の子孫たる者。何ぞ更に一歩を進めて宇宙の爲めに精神的共和國を形造らざる。是れを造るの粮食は相愛の二字なり。四海兄弟主義なり。幸に本會に於て人種、國躰、宗教の異同を問はず。精神的新共和國を形造り。一屋の下に相樂むを得は。余輩ワリマウスロックン上陸の祖先に對して亦榮光あるを覺ふ。諸君乞ふ努力せよ。」

獨逸のバンストーフ伯爵、露國のウールホウスキー公爵の兩氏祝辭を述べ。柴田氏、野口氏之に續き。夫より支那書記官彭光譽氏登壇す。滿場總起立。喝采拍手「ハンカ

ナーフ」の翻飜たるは。冬ならざるに何の雪かと訝からる。蓋し紹介者が特に注意して我米國は常に支那に親切ならざりし。然るに彼の大國帝王の寛仁なる。其使臣をして特に此席に列し。吾人をして彼れが教を聞かしむるの榮を荷はしむ。諸君請ふ歡迎せよと云へるによる。次にマグムハーアダンマパーラ及び佛國大學教授モーソー氏の演說あり。以て小憩を告ぐ。余等空腹疲勞に堪へず。止むを得ずして歸宿す。時に午後三時也。

九月十二日半曇　午前九時議場に赴く。聽衆男女合して四千餘名なり。是等の聽衆は。數時間更に倦怠の色なきのみならず。偶彼等辨士が滔々たる辨舌を以て。忌憚なく自ら信ずる所を述べ。又信ぜざるの理由を述べ。演し去り演し來り。縱横無盡、快刀亂麻を斬るか如くに其所說を主張するに至ては。其教の敵と身方とに拘はらず。嘖々たる賞辭を發して止まざるは。未だ曾て偏見なる基督教國には見ざりし所なり。憶ふ昔し宗教革新者が一度口を開て其經典の闕點を批難し。其宗義の誤謬を論破する如きあれば。忽ち異安心者、謀反人と呼ばれて。或は刑せられ。或は謫せられ。往々にして無慚の死を決せしことを思へば。豈今昔の感なからんや。當日第一

に顯はれし辨士は。大僧正アレキヤン氏にして、猶太教に就き。次は印度大學教授チヤクラバーチ氏にして、印度哲學に就き。其他二三氏。喝采に始り喝采に終る。最後に顯はれしは獨逸の哲學者アドルフバーヘック氏なり。氏口を開て曰く。余が宗は新宗教、新信仰にしてアイデヤリズム」(意思教)と名くるなり。余は不生不滅の希望なく。極樂なく地獄なく。又荒誕無稽より畫き出された神なる者の存在を信ぜず。認めず。只清淨無垢なる良心を是信じ是奉ずる者なり。云々」 時に午後一時なり。本日午後。支那書記官彭氏來訪の約あるを以て止を得

ず歸宅す。」

九月十三日　半晴　此日日本出席委員野口、平井、柴田、の三氏演題朗讀の日にして。聽衆愈多く。五千人を容るべきコロムビヤンホールのみに入るべからざるを以て。亦他のワシントンホールに於て。世界宗教討論會を開き。日々後れ馳せに到着せし者の便利に供す。十時印度學士プロタツプチヤンガーマズンダー氏先登演說す。其主意とするところ。先づ印度寡婦が其夫の死骸を焚くとき。猛火滔々たる中に投じて死するの蠻風を慨し。彼が尙少年の時。ある神力の存在を認めて一書を著

はせしと。其他有害なる惡風の改良に着手せしとより。轉じて宗教なるもの。何れか慈悲忍辱ならざらんや。看よ印度に於ける上下官民通緣談は數年前始て實行されたり。是れ印度の歷史に特筆すべき大維新なること。印度に於ける四民の別は。因襲の久き改むべからざる頑僻習慣なりしが。近頃道德と慈愛との爲め。漸く除去さるゝに至りしことに說き及ぼし。更に印度に於ける早婚夭折の弊害に論鋒を轉じ。未だ夫の面貌風采を知らさる十一の少女にして。既に寡婦となる者。決して少なからず。若し再緣すれは。人生の耻辱となすの舊習も。

今や着、歩を進めて改良の實行を見ると雖も。尙ほ國の爲めに改良を計るべきのこと千百にして足らずと云ひ。蓋し之か救濟を計るには。耶蘇教の力をも借らざる可らず。佛教の力をも借らさる可らず。其何の教に關せず。一片道德慈愛心ある者。世間擧て直接間接にこの同胞の苦患を救はゝやう盡力されんことを希望す云々。氏の辨は温順なれとも。流石に老練。其一言一句。能く聽者に感動を與へしは。感服の外なし。且登壇の初より演說を終るまて、喝采止なく。時に歡喜溢れて滿場總起立すること數。次にギリシヤ教大僧正レタス氏顯はれ

しも惜ひ哉英語に通曉せざるより折角の高尚なる意見も明瞭に通ずるを得ず時には英語とギリシヤ語とを併用するなど稍々不調子にして流石の名僧も聽衆が倦怠の欠伸に沈められて顔色なかりき夫より二三の演説ありしも別に記するに足る者なし」

午後二時三十分再開　紹介者報じて曰く諸君只今より世界第一の大帝國吾人が一時不親切を表せし支那帝國の孔子教代表者彭氏が演説さるゝに付き熱心以て彼れに聞けと是に於て彭氏登壇す氏の論文大凡二十四五ページ博士バッロース氏の秘書生パイプ氏之を

を朗讀す其意高妙其文舞ふが如く躍るが如く而かも明瞭確晰にして流石は大國帝王の使臣君命を辱かしめざるの論文なれども大聲里耳に入らざるの憾なき能はず其略に曰く。

宇宙天地萬物之を大別するに陰陽の二原に歸す此宇宙に生殖する者其數固より知る可からざれども人を最靈とす男女既に陰陽に象るべし人の靈たる所以は如何ん仁義禮智信のあればなり孟子曰く人の性は善なり人の性は水の如し交る所に依て千變萬化す宜しく人を導くの教なかるべからず孔子教ふるに人倫五

常の道を以てす。又人は感情の動物なり。茲に於てか孔子は七情あり、之を慎むを以て本となすと教ふ。凡そ人世には浮沈あり、苦樂あり、生死あり。然れども苦痛の尤も大なる者を老病死とす。是故に世界各宗教の教ふる所。皆未來を恐るゝを以て本を立つ。然るに孔子の教へは。過去未來を論せず。直に現在を指す。孔子は報酬を得んが爲めに慈善をなせと教へず。未來を願ふが爲めに功德を積めと云はず。我子に孝を得んが爲めに親に孝なれと教へず。而して慈善功德を積み、親に孝に、子を慈み、夫婦禮あり、兄弟相愛し、朋友相助け、艱難相救ふは當

前のことなり、將に人類の務むべき原則なりと。教ふ。孔子又怨に報ゆるに德を以てすと教ふ。我邦人貴國に好待されず。然れども豈之を意に介せんや、其怒を慎み、温容以て彼の意を和ぐるを勤めさるべからず。換言すれは、我邦人は、天を怨みず、人を尤めず、自ら日々に三省して貴國と兄弟たるを勤むべきのみ。又曰。己れの欲せざる所、之を人に施す勿れと、これ豈萬民同權、四海兄弟の大原理に非ずや。此教を遵奉して。人の樂を樂み、人の憂を憂へ。相提携して以て艱難を共にし、安樂を共にすべし。混沌たる開闢、無爲に化せし太古より。工夫工夫を生

し、發明發明を重ねて今日に至りし其間、萬事萬物、皆興亡浮沈ありしも。是道や千古不磨。是道や直に精神的極樂に導くべし。四海同胞以て組織すべし。云々。」

其他佛教、道教、老莊等を比較し來り。滔々たる幾萬言。皆金聲玉振。華あり實あり。他日別に飜譯を期す。」

次に登壇者は野口善四郎氏なり。其主意はコロンブス亞米利加を發見せし偉功。固より空前絶後。貴國が大博覽會を設けて之を祝する可なり。萬國競て出品する亦宜なり。三十年前迄熟眠せし我日本國民を醒覺せし貴國水師提督ペルリ氏は。我に對するコロンブスなり。其

名目殊なれども。其意一也。今やコロンブス博覽會に際して我既に物質的出品をなす。此博覽會附屬の宗教大會議。豈別になす所なくして可ならんや。何を以て宗教大會議に出品せん。唯一の佛教のみ云々。學說、理論、縱横馳騁の中に氏の如き演說あるも亦た愛嬌あり。」

次に平井氏「日本に於けるキリスト教に對する實況」と云ふ演題にて。學術と政論を折半して吾國條約論を述ぶ。頗る米人の意に投じ。其大拍手大喝采は。前述印度ゾロンムベアー氏の時に劣らず。」

其要旨に曰く。分け登る麓の路は多けれど。同し高根の

月を見るかな。蓋し世界の宗教は千差萬別なれども。其眞理を求むるは一のみ。眞理の太陽一たび光明を發すれば。佛教なり。耶蘇教なり。同々教なり。皆取て以て救世の要術となすべし。然らば吾日本に於ても。佛教獨り榮え。耶蘇教獨り衰ふるの理は。萬之れなかるべきに。却て其衰ふるの兆候あるは邪宗教を以て見做さるゝ所以にあり。其原因は今を去る三百年前。耶蘇教の假面を被り。親切でかしに日本を乘取らんとせし國あり。其結果終に天艸の騷亂を釀生す。爾來日本の人心は。なにとなく耶蘇教を嫌惡するとゝなれり。降て貴國水師提督ペル

リ氏。吾國に使せし時に丁てや。鎖港攘夷の論。大に勢力を逞ふし。內外多故に取紛れ。遂に我國は今日まで最大不利益なる條約を歐洲各國と訂結するとゝはなれり。是れ固より當時我國が世界の形勢に通曉せざるの致す所なりと雖も。苟も四海兄弟主義を口にする耶蘇國民の博愛なる所置と云ふ可らず。噫世に慈愛なきか。否黑奴解放以て之を證すべし。噫世に自由なきか。否共和國の獨立以て之を證すべし。諸君若し英國の羈絆を脫して獨立せし昔時に感憤するものあらば。諸君は率先して我不利益なる條約改正に一臂の力を貸與せよ。然

るに太平洋岸の或地方に於ては。日本人の大中小學に入るを許さず。日本人放逐せざる可らず。布哇に於て日本人に參政權を與ふべからずと云ふが如き。豈一視同仁を以て自ら任せる耶蘇教民の一大恥辱汚點に非ずや。「キリスト」教を信ずる者。既に滔々此の行をなして自ら恥づるなく。却りて自ら人に誇る。我國に「キリスト」教否僞善「キリスト」教の信ぜられざる。固より其所なり。彼れ漫に日本人を指して蠻野。猥りに文明の宗教キリスト教に妨害を與ふるとなす。然れども此の僞善宗教を拒ぐは。我國民の義務ならずや。これを拒ぐ爲には。吾人

甘じて未開の名も受けん。野蠻の名も受けんと。訴ふるか如く。怨むが如く。責むるが如くに陳し去り述べ來る。」次に博士某士登壇し。喝采賞讃の中に演し終り。續て登壇せしは柴田禮一氏なり。氏の演説亦た非常の賛成を得。其の演じ終るや。紳士貴婦人。氏を擁して接吻握手頗る多忙を極む。氏言語に通せず。喜び極りて將さに哭せんとせしほどなり。氏の演説中日本神道の來歴を述べ。我教は實行と云ひ。富士山を拜す。實行とは實地に行ふと云ふ義にして。言行共に德義を實修し。其の志氣の高尚なる。日本第一の高山富士の如く。其心清きも彼の如

し。其外形の端正なるも亦彼れの如くならんとを務むるものにして。日夜孜々として彼を手本と拜するなりと述ぶるや。滿場總起立。氏の結着は。眞理は一のみ。四海は兄弟なり。今後は戰を止めて互に兄弟相愛する如く。洋々たる和氣の中に鬱鬱たる空を頂き。一家族の如くに生活し得る樣にせんことは。余が畢生の大願にして。余が今回萬里の波濤を越へて特に來りしも。是が端緒を開かんが爲めなり。聽衆諸君。同感なるや否や。」

九月十四日晴天。　殘暑殊に甚しく。寒暖計百度に昇り。本年中の最高點なりと云ふ。本日はローマンカゾリックの大僧正カーデナルギッボン氏の演說する筈なりしに因り。朝來聽衆押し合ひ詰め掛け。開會以來の混雜なり。而して氏病氣の爲め欠席と聞くや。滿場の聽衆大に失望せしが。僧正ビショップキン氏登壇。大僧正の論文を朗讀す。是れ亦其信ずる所。吾人と異なれども。金玉の明文。其意透徹。大僧正あらざれども。其文を聞見するときは。人品才藻の絕羣たるを知るに足れり。數萬言の長文章。摘要すれば左の如し。」

吾人が生存せる十九世紀の文明は「カゾリック」の賜なり。我キリスト教的文明より生する恩澤は。天に充る

空氣の如く。日光の如く。地の生ずる菓實の如く。一般平等に。文學的に。道德的に。社會的に溢れて到らざる所なし。キリストの降誕までは鎖閉されたる羅馬の一小部を除き。世界一般に偶像崇拜暗澹たる穴中に埋沒せられぬ。世は日月星辰を拜しぬ。彼等は情慾を拜しぬ。換言すれば彼等は全知全能の神。宇宙万有の造化を拜せず。腐敗し易き造り物を信じぬ。然るに茲にキリスト來れり。」

イスヲエルの預言者がなげき且祈りし「キリスト」は來れり。來りて。世人に唯一眞神を說く。此神や。其力能

く宇宙万有を造れり。此神や。慈悲圓滿、靈知靈能、神聖にして犯す可らざる者なり。キリスト降臨までは。人は一定の見識なく。迷を出で迷に入り。夢を解て夢を結ぶ如く。其自ら何れより來りしや。何れに往くべきものなるや。實に暗夜に灯を失せし如く。大海に羅針を失ひしが如し。人の知る所は。其生れて死するまで。只長からざる苦痛煩惱の世界たるを知るのみ。過去未來の如き。高妙なる哲學の光も尙照す能はざる雲霧の中に藏れぬ。然に「キリスト」出でゝ眞神の光明を發揮するや。魑魅魍魎。直に其影を收め。爰に始て神人

の關係定り。人は未來に於る安心立命の地を得るに至れり。然れども。其教の擴張されし元の都はカゾリック教なり。カゾリック教の開基として擴張されしキリストの福音は。只に智惠に光を與へしのみならず。又靈魂に希望を與へたり。吾人に神の平和即ち吾人の良心より發起する平和を與へたり。吾人に三位一躰を教へて。此世からなる極樂を說けり。彼の十誡を守りて天帝に近ぐことを得べきを教へり。他人に慈悲と正理を推して平和を守れと教へ。我情慾を慎み。神の教を守りて、一家の團欒を形造れと教ゆ。キリスト以

前の教は。其教理狹隘淺薄なれども。キリストの初めて開きしカゾリック教は。世界教なり。一同視仁教なり。人種、言語、風俗、國土の差を問はず。集めて其德澤に浴せしむるものなり。這般の世界宗教大會議は。熱心思慮ある人々に、各宗教上の本旨を述べ聞かせ。自らの開悟を以て滿足せず。他をして亦滿足せしめんとするものに外ならず。余も亦神の惠に依りて得たるこの賜を諸君に分配するに吝ならざるべし。眼を開て見よ。我宗が社會になしたる功果を。　我宗は社會を利せし親玉なり。　我宗のみならず。世界の宗教殊にキ

リスト教内の他教派が、其信ぜらるゝ社會に與へし利益は決して尠少ならされども。今假りに我宗が社會に施せしを列擧せんに。我宗は神人の關係を說けり。キリスト教理に依りて人世風俗の艱苦を脫して未來の希望を敎へたり。婚姻契約を授けたり。人生れて死するまで權利の安固なるを說けり。男女少年敎育の爲めに、併せて老衰據るなきものゝ爲めに、育兒院、救貧院を建てたり。病者の爲に病院を設けたり。墮落婦人懺悔の爲に懺悔院を設けたり。奴隷賣買廢止に力を致せり。勞働社會に向ふも常に無二の友たり

き。以て見るべし。我敎は一視同仁敎たるを。一視同仁の主義を擴張し、四海同胞を見る爲めには、全力を盡さゞる可らず。人として其隣人を助くるの義務を神より受けざるの人はなし。吾人をして謝せしめよ。吾人互に其信ずる宗旨を異にすれども、吾人が提携並び立の餘地は、吾人を隔てなく待つを。此の餘地とは慈愛恩惠なり。吾人の不能。實はキリストとの如く盲目をして視せしめ、聾者をして聞かしめ、啞者をして言はしめ。躄者をして立たしむる能はずと雖も。吾人庶幾は隣人同胞が苦患の幾分を匡救するを得

ん。吾人の隣人の苦を救ふは、神に一歩を近くなり。暗澹荒漠たる無宗教心に德光燦然たらしむるは、神に一歩を進むるなり。嘗て涙なく、血なく、不毛荒蕪、心に希望の花を咲かし、實を結ばしむるは、神に一歩を進むるなり。吾人をして相提携して兄弟たらしめよ。否シセロの云ひし如く、人の神に近くの道は、隣人の幸福を進むるに若くはなしと云ひし如くせよ。云云。

夫れより二三氏の演說ありしが、ギッボン氏最たり。一時中休す。午後一時半二階二十三號室に到るに、男女百有餘名ダンマパーラ氏の一名を相手に疑問百出す。然

れども氏が大膽熱心は能く質問者を滿足を與へたり。一老人あり。問ふに佛耶の優劣を以てす。彼一言下に伏せて曰く。耶蘇固より賢人なり。然れども彼は後に出で。六百年前の佛陀の教說を演繹せしのみ。豈比較するに足んや。又一人あり問ふて曰く。キリストの救世主たるを如何。答て曰く。荒誕極れり。人は他人の救主たる能はず。其因果の理法に由て苦樂の大海に浮沈す。佛修練苦行。摸範を後世に貽す。佛は世人に摸範を示せしなり。萬物皆佛心あり。磨けば皆光り。練れば皆佛となるものなり。佛何者ぞ。我何者ぞ。覺ると覺らざるのみ。キリスト若

し山師ならずんば彼れ能く自ら丈は救ふを得ん他を救ひ得じ云云又人あり佛は死に打勝たんかと答て曰く佛の境界死なし生なし正覺不退轉又人あり問ふて曰く余にも佛心あり何故死を恐るゝや答て曰く心清淨潔白ならず折角の智惠の光明五欲煩惱に蔽はるればなり云云」

午後二時半再度開會　第一ボストンのヘール氏登壇し熱心誠實に演し終る其意に曰く」

人間は不完全にして一時に多くの事をなすを得ず我國は文明に進めり物質的の開化に入れり これより精

神的の文明と開化に入らざるべからず我亞米利加を發見する爲めのパイオニアは群をなして一時間内に得らるべし精神的のパイオニアは如何ん誰がなす者ぞ」

次に博士クック氏登壇す流石に紹介者か世界宗教界の勇士と謂ひし丈ありて輕舸急流を下るの快辨に非ざるも烈火枯草を燒くの勢は慥に充分なりしも惜むべし其見所頗る偏僻にして耶蘇教の外一として社會の汚點を去り得るの教なしと言ふにあり氏の如きい實に熱心なる演說家なり次に登壇せしは吾黨の土宜法

龍師なり。演題は佛教と云ふ。先づ大乘より說き初め。其無始無終、慈悲圓滿なるを。人は己の心より己の罪にて智光を包めるを。恰も蠶の其身より糸を出し身を包て繭を造るが如しと述べ。罪人たるを以て佛の教理を摸範として己を修めざるべからざるなり。已に修養功成りて佛の位地に進み。眞如の月を認めば。最早心と佛と衆生との差別なく。理法一體となる。蓋し眞如の月は一のみ。今日まで互に相反目仇讐視せし無明長夜の雲晴れ。唯一無二の月に照されて。一視同仁、世界兄弟を形造るを得ん。今回の大會。豈この名譽赫々たる日の將に明

けんとする前兆にあらざるか。云云。」

演說終りて一士人あり。野村氏に問て曰く。君。今の演說を了解せしやと。彼れ直に答て曰く。然り。君は如何ん。曰く否。曰く宜なり。佛教の佛教たる所以茲にあり。吾人は漫に詭辯を弄して潮勢に伴るゝ演說をなさず。我國高僧佛徒の如きは皆な之を耻づ。故に今卿等の了解せざるは。卿等の智識進步せざればなり。蓋し遠からずして卿等と共に此眞理を語るを得ん。」

此日支那一等書記官より說教(蓋し今回演說の原文)に手簡を添へ送らる。手簡如左。」

洪嶽大法師慧照、壽陀性耽禪悅、中歲遭家多故、寄心梵典、者十年、然所見龍藏諸經、不過十餘種、自藏者、惟萬行首楞嚴、妙法蓮華、大彌陀三經而已、外此法苑珠林、佛祖通載、及語錄諸書、亦稍涉獵、無所悟入、客吉林時、注心經一卷、惜刊本不在篋中、欲注金剛經未果、遂泛海乘槎、又近十年矣、不圖地背得遇象教眞宗、前日展謁講壇、一切開示、授我無盡燈論、歸後終夕、誦已不翅、重遊法苑、此書固非昔見、而古德遺論、多所舊聞、無盡之燈、燈燈如是、壽陀結庵、中歲亦名一燈也、壽陀儒生耳、遵尼父之母我守同弗、與異弗、非之古訓、於宋儒尤喜司馬温公、邵康節先

生、蘇文忠公、三家、故亦兼及二氏、嘗謂義易在天地、諸家未興以前、復之初九、實足貫諸家性理、唯基督氏之理、終無以貫之、既非脩齊治平、又非明心見性、麥哈默氏之咕嘞經、固所未見、與基督實同源異流、彼二氏之傳、寰宇殆徧、果何理也、壽陀非奉朝命遠傳儒學、惟童蒙求我、大叩則大鳴、以宋五子之言釋易傳禮經之義、爲說教一卷、言必忠信、意或可行、豈天將啓其智慮、稍識倫常、稍聞上乘、遂令我輩於此相値耶、惠我大乘佛教大意譯文、今奉酬說教、印本一册、其中於二氏不能宣揚、所謂一家言耳、

大師昔嘗飛錫支那身毒、佛國久變回土、中華自乾隆而後、

諸家之學、稍不如前、佛氏之徒、以粥飯作佛事、昔識二禪師、名俱不顯、然能解眞實義、不逞機鋒、久已化去、爲圓證爲枯脩、皆非所知、中土梵刹、聲息寂然、京西山中、檀柘碧雲盧師、諸大叢林、當有大善知識、要之必不在方丈知客、問耳、大師參證精勤、壽陀無名可舉、窃謂大師已透眞宗、要在高豎亞頂門一隻眼、力行此道、自能扶起眞風、海水逆流、家山即到、破無明見眞性、不在外求、騎驢覓驢、何如種豆得豆、向上一着、末後一句、會見震旦、禪和子盡向大師求之矣、異國秋凉、諸經調御安隱、

一燈龕居士壽陀和南

癸巳八月初五日

阿美利加洲施家谷

九月十五日　頗る暑し。抑々十一日開會以來。茲ゝ五日。諸氏の演する所。只其自ら信ずる宗教の原理を布演するゝ過ぎざりしが。本日始て比較宗教ゝ關する意見を聞く。又此意見や。多く婦人の口を借て云はれぬ。第一席はシカゴ大學の教授ジョーン、グードスピードゝして。論題は「死せる宗教は何を現存の宗教ゝ遺せしや」と云ふ。其主意左の如し。

「前略」諸君。宗教の數は實に千差萬別なり。而して一本立に非す。決して獨立のものに非す。互に相關連、父子、兄弟、姉妹、遠近、親族、緣者の關係なくんばあらず。死したるの宗教は現存者に遺産を讓れり。凡ての宗教組織には。各々據る所の眞理あり。或は少くとも眞理の原素ありて。詮じ來れは永遠不滅の一觀念に歸す。若し此の眞理の觀念なくんば。何を以てか人類の望を繫き。其尊崇を受くるの理あらんや。而して死したるの宗教は。只に共に此の眞理の一部分を含有せしのみならず。全く今日現存の宗教は。彼等が後身なり。遺

物なるに外ならず。試に見よ。今日の歷史を繙て見よ。人種、風俗、政治の古代エジプト及ひアッシリヤより傳はる歷史的の事業にして。彼等の腦裡は胎胎せざりしもの幾許かある。且つ人生行路難の外形。歷史既に相關係す。此の人心を支配するの宗教。互に陰然繫がざるの理あらんや。古代の宗教が社會人世に一度應用せしの考案は。彼等の眞理となりしのみならず。今日文明的宗教發達の大原素となりしものなり。然らば世道人心を繫ぎ導く今日の大宗教は。全く彼等死したる宗教の賜と云ふべし。宗教學者は異口同音に

傳へて曰く。世界宗教の源は。大古蠻族の胞胎に基き。進んで印度古代の一宗教となり。轉じてエジプト古代の禮拜と變じ。進んてキリスト教となり。分れて諸岐を致すものなりと。複雜なる今日の社會研究の事。一として緻密ならざるなきも。比較宗教の範圍内に横はれる研究ほど。錯綜紛雜にして而も必要なるは勿かるべし。時間に假なければ。一々縷述するを止めて。只これら死したる宗教が今日現存者に殘せしものを原ぬるに。其重なる證跡は蔽ふべからざるなり。貴重なる二證跡とは。神の必要と、神を認むるの知

識となり。古代の死したる宗教は此の賜を遺傳せり。故に今日生ける宗教は。暗夜荒原に彷徨するの感あらず。生くる宗教は死したる宗教より人々を照すの光を得たり。此光傳へて吾人に到り。赫々として大神託宣の光を添ふ。云々。」

次に「コンスタンチノープル」のロバート大學教授長ドクトルジョージウオジユボン氏登壇して耶回兩教の異同を陳ぶ。大要左の如し。

余の目的は回教の辯護にも非ず。批評にも非ず。只不偏不黨の目より。キリスト教との異同を辯せんとす

るにありイスレム教は、重に天使カブリエルに依て屢々彼の大豫言者に渡されたと傳ふるコーラン教とマホメットは、性質言行の記錄、其他云々、マホメットはキリスト猶太兩教を通讀せしや否やは知る可らざれども承認せしは疑ふべきに非ず。如何となれば。余は神、天使、聖書、豫言者、裁判日、善惡に關する神父の永遠不滅なる規定。死後の復活に於て信ずるなりと彼は云ひければなり。余は回耶兩教の優劣に就ては彼是云ふを欲せず。神が愛を以て話せし眞理は。取て以て共同の基礎となすべし。吾人は共同の神父を

有し。吾人は兄弟なり。吾人は共同和樂に消光せんを祈る。云々。」

夫れより幾多の婦人順次登壇す。比較宗教的の論題。多く回耶兩教に關すれは爰に略す。」

午後支那人クンシンホーなる人の孔教と云ふ論文をウイリヤムパイプ氏朗讀す。其論文は今回支那に於て本大會が募りしものにして一等賞を得。即ち百五十弗を送りしものなりと云ふ。其意に曰く。

高等人類の研究中。最も必要なるとは戰々競々として大道に背かざるにあり。是を以て孔教は天道を守

るを以て主となす。易經に曰く。世の變遷中に千古不磨の一大精氣ありて陰陽の二氣を生す。此一大精氣は凡ての元氣の源泉なり。我朝古聖賢哲。此陰陽と五元は互ゴ間斷なく相輔け相働くものにして。其必要なるを門戸開閉のチョウツガイの如く。樹木の根幹に依るが如く、人世萬事。皆二氣五元の結果なりと云ふ。人間萬事、善惡良否。みな此働きに之れ依る。こゝに於て吾人が地球の南北極と云ふ如く。此氣元を最上極と云ふ。此の陰陽五元の産出の精なるものを人となし。其餘は皆粗なるものなり、此の精の精なるもの

を聖人賢哲となし。其精の粗なる者を愚となし。惡となす。吾人の精神靈魂は、陰陽より生するを以て。吾人は完全なる能はず。此れ即ち哲學者の物質性と名くる所のものあり。よしや吾人は本來生れて清淨良好なるも。若し規矩を右ゴし。準繩を左にするの敎なくんば。欲望生し、煩惱起り、害惡到らざるなくして。下等動物と撰ぶ所なからん。是に於て孔子曰く。人性は元一なり。交る所によつて變ずと。古聖之を知り。仁義禮智以て人を治めき。天は帝王君主に命じ。帝王君主亦世人を保護し。善を進め惡を防ぐの爲めに政刑を設

けたり。今や人倫五常。天下到る處の人々に實行されざるべからざるを以て。賢君上に立ち、良相内になからざるべからす。此の如くにして良政期せずして起り。治蹟求めずして擧らん。親は愛に、子は孝に、長は友に、幼は悌に、夫は親切に、婦は柔順ならざるべからず。茲に於てか一家團欒の樂、求めずして得らるへし。而して朋友信あらは社會の平安期すべし。我孔教の大目的、大主眼は。修身齊家、治國平天下なり。能く我國に行れぬ。是れ即ち太古より今日まで變せずして我國に孔教の重んぜらるゝ所以にして。其怪力亂神を語

らざる尤妙味あり。

夫れより二三の演說ありしが。濟々たる多士。何れも優劣なきものなれは、茲に略す。

夜七時より再開會。皇族演說と云ふ。蓋しウルホスキ露國皇族。チャンダラバー「サイヤム」皇族殿下の演說あれはなり「サイヤム」皇族の演說に曰く。（自ら出席せしに非す）

我國に於ける佛教は。吾人に教へて曰く。宇宙萬有皆悉く「ダーマ」より造らると。「ダーマ」ハサンスクリット語よして。自然法を意味す。「ダーマ」は次の如く現象を呈し。各人各個に成立するものなり。即ち第一に永却進

化の苦患成就。第二に人の考念に從ふ苦難。第三に人の欲望に依りて左右すべからざる別働力なり。「ダーマ」は物心の二より成れる。永遠不滅にして。始めあるをなく終りあることなし。一は外界の肉體を表し。他は内部の精神を表す。この三現象要素となり。喜怒哀樂生す。吾人上下賢愚を通じて苦の大なる者は死なり。この死苦を避くる一手段は。佛の四眞信行の修練によつて。此の完全無欠なる智見を得るにあり。人は肉體的の幸福を希ふを止めざるべからず。人生元空寂、有爲轉變、恃むに足らざるを知らざるべからず。眞

の佛徒は今及今後樂むべき肉體的快樂の爲めに。自制自克の能を失ひ去る可からず。佛教四眞理の一は苦なり。生れても苦なり。老ても苦なり。病でも苦なり。死んでも苦なり。貪るも苦なり。愛する者に別るゝも苦なり。己れの欲せざる所の者に交るも苦なり。詮じ來れば人生何事か苦ならざらん。而して換言すれば我は苦の本にして。我は「ダーマ」を造る色心の本なり。貧困病死不幸人を壓せんか。彼は怒ることなく忍べざる可からず。忍んで其原因する所。己れにあるやを究め。以て能ふ可んば之を償はざるへからず。慈悲忍

辱は佛者の義務なり。本分なり。若し彼が現世の行爲。彼が現今不幸の原因たるを證する者ならんには。彼は之を前の業果と諦めざるべからず。凡う飲酒荒縱は。人を愚昧狂暴佞惡に陷るの媒介たれば。宜しく謹んで節せざるべからず。云云。

次に露國皇族の演說あり。終て土屋、柴田、野村三氏とパーマー夫人の夜會に赴く。氏は世界に名を轟かせし交際家、米國交際社會の女王たるに耻ぢず、其の景況は今之を略す、

九月十六日晴　開會演說に先ちて、ドクトルハマッス氏

カルカッタなるブラモンソマジ會より本會の開會を祝する海電を朗讀す。滿場大拍手大喝采中に同印度の人にして回教第一の名士ジランバー氏、直に壇に顯はれ、感謝の意を表して曰く。諸君。余の同鄉人士が茲にこの吾人が大會を祝する爲め。全幅の赤心を以て、海電をかくの如き遠路より送り來りしを見て。欣喜雀躍、手舞足踏を知らざるなり。余初め以爲く。東西半球晝夜を殊にし。相隔つる有形上海山萬里のみに非ずと。然るに眞理を喜ぶの眞心は、東西一轍、電信一瞬。茲に同朋相擁して諸君に見ゆるの感なくんばあらずと。滿場再び喝采湧

くが如し。續て登壇せし辯士。其數殊に多し。第一の辯士はニューヨークの人博士チャーレス、エ、ブリック氏にして。バッロース氏、氏を紹介するの辭に曰く。余は今其深邃なる學術と、其敢爲なる勇氣と、其眞率愛すべき誠實の爲め。世界に驍名を轟かしたる彼を紹介するを喜ぶと、演題は　聖書の誠なること。　其要旨に曰く。

諸君。時間に制限があるから充分に余の意見を述ぶる能はざるを遺憾とす。賢明なる諸君は。假令意明らかならざるも、語足らざるも、推考し玉ふならん、世界の歷史宗教は。みな各〻聖經を有して神の託宣と云

ふ。其中最も秀たるを耶蘇教會の聖書となす、試に歷史を繙讀するに。我耶蘇教が白人全體を支配する聖教の眞價は赫々として蔽ふべからず。我宗教は劍に依らず、血雨を降さず、腕力に訴へず、恐喝手段を取らず、政治家の餌とならず。只幾許身を犧牲に供せし古聖賢婦の熱心と誠實によつて今日の盛大を致すは。歷史の證する所にして、識者の一致する所なり。余は曰ふ。世界の聖書は汗牛充棟諸君を待つ。諸君舊來の偏見を止めて。進んで以て讀むべし、講ずべし、比較すべし。其内の高尚眞實良好なる所の者は。みな取て以

て心に銘すべし。然れども諸君は必ず幾多の點に於て。我教最も眞理なるを悟るに吝ならざるべし。彼れ他宗教は暗夜を照す松明なり。然れども我教は天に輝く日月なり。日月出て松明光を失ふ。諸君。今日は批評の時代なり。學術の批評に對抗せざるへからす。

今や批評の時代にして。舊記古聞、皆な近世學術の試驗を經ざるべからず。理學は眞理を得んが爲めに地球の廣狹を討論し、宇宙の不可思議を解せん爲めに天體を穿鑿し。歷史の墓碑は。石となく、金となく、一として此の穿鑿を免るゝなし。此批評多忙の時に當

りて。キリスト教聖書の眞理と、キリスト教會の組織、獨り批評を免るゝと思ふものあれば。彼は未だ識者を以て目す可らざるなり。宗教を以て學術に對し。信心を以て批評に抗するは。策の得たる者に非ず。批評は吾人に教ふるに。批評に遇ふて震動屈撓する如きの信心は元より暗弱不定。將た其生活實際に就き。徒に疑を起すに足るべきものなるを以てし。學術は證するに其試驗に反對する如きの教義は。滅沒遠きに非るを以てす。學術旗皷堂々として早晩我キリストを試驗するの日あるべし。而して前頭に立て吾人は

我聖經の眞理なるを維持し得るや否や。吾人却而聖書を閲すれば。時に天文、地質、動植物學上の誤謬あるを認めざる可らざるあり。我聖書を書せし人は。其當時世界普通の才能學術を備へし人物たるに相違なきも。彼等が記載せし所は。人生の現象を演繹せしに過ぎず。彼等は只宗教是れ講ずるの熱心ありしも。其他學術諸科の理數を講ずるの能力氣根なかりしなり。

然れども古代歷史に遡れば。歷史も亦妄誕不稽の事多し。人文日に月に駸々として進化するの今日。朝

令暮改。昨是今非。決して歷史の傳ふる所、盡く信實なりとは輕しく信ず可らざるなり。我聖經固より今日及今後の學術の試驗に遇ひなば、殘る所の者は只夫れ眞理のみ。千言萬語華を飾れるも實を結ばざるは、吾人の取らざる所にして。吾人は切に源泉滾々たる眞理は、學理の火の如き水の如き攻擊試驗に逢ふも。益、愈、光を放つ者なるを信ず。

古代聖書を記せし者。僉な大賢に相違なかりしなり。彼等は全智全能なる天帝の命を帶び。筆舌を領せしものなれども。何を云ふにも所謂凡夫のみ。不完全な

る能力と智識を具し居る動物にして。豈天帝の意を表するに誤謬なしとせんや。況んや大聲俚耳に入らず。當時の人俗を匡救するは。當時の風潮に合するの得策なりしをや。眞理は固より千古不磨のみ。之を注釋するに己の意を加へて潤色せしなれば。誤謬の多き固より恠むに足らざるなり。先づ試に云へば。舊聖書にある(モーセースよ、汝か心の頑固なる爲めに、汝妻を離縁せしむ、初より然るに非ずと、)かくの如きは眞正なる天帝の本意にも非ず。亦婚姻の本志にも違反するなり。余は神を信ず。神は愛なり。眞理なり。乍併

聖書に誤謬あるは免る可らす。よしや聖書に誤謬あるも。吾人は現世及未來の用意なかるべからず。文明を以て誇る歐米人も。頑愚なる南洋諸島、亞弗利加人も。大人も小兒も。未來の用意なかるべからざるなり。吾人は顧みて聖書の不完全なるを見て落膽失心すべからず。自ら進て我心を以て愈益完全無欠になさんと務むるは。即ち十九世紀文明人の通義也。云云。

續て紐育のロッビーゴシエル氏論文を朗讀す。喝采に始まり拍手に終る。蓋し開會以來の名文なり。論題は「モー

セスの豪傑なること」と云ふよありき。物換り星移り、榮枯盛衰、千變萬化する世の中にモーセスの熱血と赤心は、嘗て其熱度を冷ますさず。其色を變せず。神的の人物として。世界法律の鼻祖として、其名は益、愈、高し。彼れは神に非ず。人なり。彼も過ちなきに非ず。過あり、人なるの故を以て彼を貶す可からず。夫れ天文學進んで世人の大陽を尊敬するの蠻風止しと雖ども。大陽は天に輝きて嘗て其光線熱度を變せざるなりと說き起し。夫れより彼れが一章を三段に分ちて微細に說き終りぬ」

次に紐育の人セトン氏登壇して「飜譯者としての文學」

なる演題を演す。ヒブリユー文學は泰西文學の元祖なり。ヒブリユー文の根幹はキリストの聖書にあり。近代の學者、此聖文學と戰ふて破れたり。強硬なるにも破れたり。ゴエテ三舍を避けたり。ミルトンも冠を脫せり。マシユーアーノルドも遂に克つ能はず。詩聖テニソンもブローニングも遂に是れに同意せざるを得ざるに到りぬ。云云。續て二三の演說あり。」

午後再度開會　最後に八淵氏演說十五分間にして降壇す。別に記すべきなし。」

九月十七日　日曜なれば午後二時半より開會す。聽衆

殊に少し。當日は恰も神智學會員の顔揃とも云ふべき有樣にて。孟買、カルカッタ等より來れる辯士演壇の左右に并列す。第一の辯士は神智學會員中に其人ありと知られたるニューヨークウイリヤム、キユー、ジヤッジ氏なり。オッカルト及エッラリックのことを熱心に演ず。事頗る怪なれども。辯論の巧なる、論理の非然たる、語氣の熱心なる、自ら聽衆の耳を傾けしめたり。中に云へるありエソラリック固より佛敎の一部分なりと。夫れよりドクトルジエロム、ドクトルアラメッテ諸氏交代演說し。最後に顯はれしは誰ならん當時のアンテベザント女史なり。

女史はセオソフヒスト女軍の隊長にして。故マダムヴラッバスキ女史の後身なり。女史が肩に引掛けたる上衣はヴラッバスキ氏の遺身と思はれたり。若し彼れ狂にあらずんば奇想天外に飛ぶの女豪と云ふへし。彼れの演說は。人智を七段に分ち、進化の理を說く、七段目卽最高の所に修練し至れは。人は炎を包めるランプなり。其中心は光明の源泉たる永劫不滅の光輝に合すと云ふにあり。

九月十八日曇　余か論文朗讀の日也。土屋、柴田の諸氏と同伴會場に赴く、ケンタッキ州の大僧正ブラッドレー氏

壇に在り「ローマンカゾリック教會」なる問題に就て演說す。長さ殆んど一時間半なれども。聽衆をして絶へず拍手喝采に忙がしからしめたるは。氏の老練と熱心に伴ふに幽邃なる演說ならずんばあらざるなり。吾人より見れば、固より一ケの自慢履歷談に過ぎざるも。カゾリック教の教義、履歷、世道人心を維持し來りし勢力と。十九世紀の文明に與へし功果とを演繹して。巧に其證跡を擧げ來れる所。天晴流石なり。

次にオハイヨ州の第一プレスビテリヤン教會の女宣教師某登壇す。演題は「女子の務め」と云ふ、

女史今年四十五六歳。矮少蒼顏にして外貌醜なりと雖も。其口を開くや音吐嘲喨たり。冒頭第一に曰く。誰か云ふ男子は神父の榮光にして女子は男子の榮光なりと。愛を以て充たされたる神父の前に立つ。豈、男女の區別あらんや。妾は今舊教のフイビー女の事に就て云ふに。神父の娘たりしを以てす。天父の目よりは勿論男女の差別なきも。時と、場所と、人の性質によりて、之か訓誨の道を殊にせざるべからざるは。理の尤も覩易き所。何そ知らん天キリストフイビーの一男一孃を下して。吾人々類兩性に悔ひ改めの教を授けしものにあらざるな

きを知らや。否な天は其愛する男女兩子を使はして吾人に誡めたるに相違なし。然るに今日の社會を通觀すれは。實に男子は神の榮光にして女子は男子の榮光たるの觀あるは。決して京童の流言に非ず。其實際に然るを認むるなり。諸君。妾等は社會の尊敬を受く。其尊敬や物質的の尊敬なり。制裁的の尊敬なり。妾等の務は儀式的の尊敬を受るを止めて。精神的の尊敬を受け。彼れも我れも皆な共に神父の榮光と云はれんことを務めざる可からず。云々。良藥口に苦く。忠言耳に逆ふ。折角の演說も。意外に喝采少なし。

次に登壇せしはハーブァード大學の教授ライヤン氏なり。風采容貌。慥かに大學教授の貫目あり。音聲清朗にして微風徐ろに來て落花の片々たるを見るの思あり。其所說は猶太教と學術文明と云ふにて。絶叫して曰く。今日の世人猶太教及猶太人を蛇蝎視す。何ぞ偏見なるや。耶蘇何人ぞ。猶太人にあらすや。新舊兩約全書何物ぞ。猶太人の手に成りしにあらすや。今日の文明ヒブリューに養成されしにあらさるか。ヒブリューは猶太の文學に在らさるか。眼を開てハーバード大學の舊文學歷史參考室に集るものを見よ。又心を注でシカゴ大學の參考室

を見よ。其十中の八九はヒブリュー文學書籍に非るかと說き起し。猶太敎の貶す可からずして却りて研究して共に相提携すべきことより四海同胞主義に及ぶ。

次は余なり。問題は「佛敎の要旨幷に因果法」土屋氏朗讀する筈なりしも。風邪の爲め咽喉を痛めたるを以て。咄嗟の際バッロース氏に依囑して朗讀の勞を取らしむ。亦喝采を博す。其大要左の如し。

諸君よ。無限の時間に相續して無際の空間に羅列する所の凡ての品物は。何から出來たでありましようか。私の看る所に據れば。蓋し心的二箇の元因から出

來上りたる者と思ふ。而して心的二箇の元因とは。性と情との二でありますが。性は吾人が本覺の眞性でありまして。一切萬物が住み家として居る理體であります。之を大智度論には。一切の色法皆空分あり。諸法の中皆涅槃の性あり。之を法性と名くと云ふてあります。情は吾人が不覺の一念で即ち妄想の異名であります。是を大智度論には。五情の所欲と云ふてあります。そこで此一念不覺の心が起りまするとと。自と云ひ、他と云ひ、能と云ひ、所と云ひ、樣々なる物が出來るので。所謂內に既に生ずる所の識想紛然たれば、外

に成する所風輪あり、水輪あり、金輪あり、地輪あり。結んで山石となり。抽て草木となると。經文に說てあります。そこで又首楞嚴經には。迷妄にして虛空あり。空に依りて世界を立し。想の澄めるは國土と成り。知覺は乃ち衆生となる。空の大覺の中に生するは。猶海の一漚の生する如しと云ふてあります。之れを委しく申せは。衆生の有情なる物が正報で。山河の無情なる物が依報でありて。情と無情との二報が取りも直さず性情なる心的二箇の原因から出來上たと云ふものであります。此通り法性が緣起して萬物が世界に

顯はれてくると同時に。古も今も。一物として生死の範圍を飛び越ゆることは出來んのであります。而して所謂死と生と性と情との四者は。いつも主人となり、客となり。互に相關係して極まりないのであります。乃ち死は生あるによつて死があり。生は情欲によつて身命があり。情欲は覺性が動き出すに由て情欲が起るのであります。之れを約言すれは。萬物をして生死の渦中に浮沈せしむる者は。實に不覺の妄念が係累をなすと云ふに外なりません。そこで我が大聖人釋迦牟尼世尊は。一切種智。三世洞觀の眼を以て。無

量無邊の衆生が。茲に死んだり彼所に生れたり。各善と悪との二習慣に從つて。苦と樂との報酬を受け。行きつ戻りつ。輪廻極りない有樣を愍察し玉ふて。其出世五乘の道路を開拓して。以て一切衆生を導き。彼の汚染の虚妄なる習慣を退け。此清淨圓滿なる大帝都に到着せしめんと誓ひ。此世に出現せられたのであります。凡う種々の心識が眞如の性より起動する所のものは。皆所謂情と云ふ部類に屬帶せられて。乃ち眼に色を見たり。耳に聲を聞たり。鼻に香を嗅きたり。舌に味を味ふたり。身に細滑を受けたり。意に識を生

したりする所のものが情と云ふので。其情の感染する上に。或は善きものあり。或は悪きものあり。十人十種と分れてありて。若しも吾人が一期の身命を謝還して次期の身命を受取る段に至て。知らず覺へず。冥然として其前習慣なる善悪の種類と感じ合ひまして。正に受けへき所の結果報酬を受くるのでありますさて其情感にも。篤きものもあり。薄きものもあり。機根にも。大なるものもあり。小なるものもあります所から。大聖人釋迦牟尼佛は。天眼を以て其情感機根の善悪篤薄だけにうれただけに方便力を以て宜きに從ふ

て法を演べ。或は五乘とも三乘とも。自由なる濟度を試みられたる有樣は。てうど名醫が萬病を診察して萬種の藥法を施す樣なもの故に。又經文には。釋迦佛身大醫王となり一切の病を療すと掲げてあります。今其五乘の要領を示さば。一には人乘。是は此生に於て能く五戒を以て佛道を進脩すれば。其結果は當來に必す人道に生れると云ふのであります。二には天乘。是は此生に於て能く十善を以て佛道を進脩すれば。其結果當來に必ず天道に生れると云ふのであります。三には聲聞乘。是は此生に於て能く四諦十二因

緣の法を以て佛道を進脩すれば。當來には即ち阿羅漢緣覺の果を證得すると云のであります。五には菩薩乘。是は能く一心源に徹底して而かも六度万行を進脩して。以て大究竟の佛果、即ち初に所謂清淨圓滿の大帝都に到着すると云ふのであります。而して此五乘は、豫め備へ附たる法には非ずして。皆吾人が根器の勝劣と進脩の利鈍とに因て得る所の活法と云ふことを忘れてはなりません。然り而して上の五乘の中、聲聞、緣覺、菩薩、此三乘は佛出世の法と申しまして。其法を以て超然として高く世俗の表に出て。大に其

情累の汚染を潔淨して。只唯眞如實際の靈域に趨向せしむると云ふ眞諦的の法門でありますが。前の人天、此二乘は世情の迷妄を容易に除去することが六ケ敷いから。暫らく世情其物に就て漸次に之を調御して、是れ又靈域に到着せしむると云ふ俗諦的の法門であります。如是佛一代の提唱は、頓漸半滿、大小權實と分れ。或は八宗十二宗と分れ。二千數百年の長日月。歐亞幾億の人民をして。且つ信し且つ謗し。且つ喜び且つ怒らしめ。順緣逆緣、驚くべきの活波瀾を性海に鼓動せしめ。畢竟轉迷開悟の彼岸に歸着せしむる

と云ふが。我が佛の大目的であります。此故に心外に法を見るを外道と名くとの格言は。佛敎が諸宗敎、諸科學に對して。如何なる關係を持って居りますかは。他日諸君と實地に商量せんことを希望す。」

本日の最終の演說はダンマパーラ氏なり。略之。」

九月十九日晴　朝日蓮宗の代表者川合芳次郎氏來る。予件ふてバロース氏を訪ふ。川合氏演說を企望するも。貴重なる時間の繰合せに躊躇し。バロース氏等の停止する所となる。」

當日聽衆多し。蓋し大博士マッキスミユーラル氏の論文

朗讀の日なればなり。バロース氏第一に英國貴族ソーノット女史の書狀を朗讀す。文辭流麗にして。其意四海同胞の初舞臺に初幕を開くものは、ミチガン湖邊美術館內世界大會議なりと云ふにありき。次にロンドン大學の教授マイナスシエラズ登壇す。演題は「默許」と云ふ。先つ曰く。余が歐州大陸に在るや。人この世界を評して譬ふるにナイヤガラの大瀑布を以てす。蓋し大きけれども役に立たずと云ふの義なり。然れども眞正なる宗教家は。之を以て當れりと思はず。尙進んで曰く。罪なき犬羊互に相合して一隊となり。相樂まんと欲す。之を鞭

ち之を隔つるは牧者なり。世人四海同胞の一家族を形造らんと欲す。之を妨げるは牧師なり。牧師と牧者と。何そ國音近くして爲す所相似たるやと。罵倒一番す。次にバロース氏立て博士マックスミユーラル氏の演說を朗讀す。其意に曰く。余の意見は相變らずキリスト教の改良にあらずして復活なり。換言すれば彼の語あり。語は肉となれりと云ふの以前に遡り。今日學理の攻擊を受けて。辟易遁逃せんとする如き聖書に依らず。教會組織に依らずして。獨立活歩の源泉に渴を醫するを務むるにあり。此源に溯りて初めて世界各派宗教が儀式的異

様の假面を捨てゝ一に歸するを得べく。四海兄弟初めて組織するを得べし。這般の大會。此目的の到達を助くる少なからざる可し。云々。」

次に顯れしは第二プレスビテリアン教會のマクファーソン氏の論文なり。「宇宙に於ける人の位置」と云ふ。曰く。太古氷塊時代を去る二十五萬年以上に及ぶ。其間榮枯盛衰せし各種の人類頗る多きも。皆な尊ふ所の神を人に似たるものなりとの說を持す。これ妄說として輕視す可かず。吾人は人に依て神を知らさる可からす。神人常に相似たるの點あり。換言すれは。人の尤も善良なる

時は神の如くにして。彼れ愚惡なる時は神が愛を注く目的物となるなり。云々。」

次に大學教授マーウインメリースチル氏の論文朗讀あり。續てロンドンの神學者にして名文家なるホーエイ氏「音樂と感情と道德」なる論文を朗讀す。氏外貌美ならず。身躰殊に矮小。五尺に充たず。其掖下にステッキヲ挾み。言論激し來て思はず踊躍するの狀。恰も一寸法師の舞踏に似たり。吾人をして嗚乎此一擭に足らざる小兵者にして。世界十九世紀の文壇殊にロンドンに大勢力を有するかを思ひ起し。轉タ感服に堪へざらしむ。曰く。音

樂は感情の語なり。感情は思想と相關連し。思想と擧措と相連繫し。擧措と行狀と修身と離る可からず。是を以て人類の天性を變せり。音樂は唯一无二の生たる技術なり。云々」

九月二十日雨　故を以て當日は屈指名士の顏揃たるにも拘はらず。例刻に到りしも聽衆場に充す。當日は回教のウエップ氏。獨逸の伯爵ウオーフストーフ氏。ゼームスプラント氏。大學教授ウオルドブデット氏。教授フオイ氏。及日本耶蘇教の驍將小崎弘道氏等なり。開會以來茲に十餘日。其間多少聽衆の拍手喝采を聞かざるの日なきに。本日初めてノーノーの反響止むなく。辯士をして降壇せしむるを見る。之を誰とかなす。回教のウエップ氏にして。演題は「イスラムノ精神」と云ふ。滿場ノーノーノーノーと連呼妨害を試むる中にあつて。泰然として動かず。顏色自若として自說を淳々として主張す。氏も亦大膽者なり。彼れか一夫多妻の事を論して。一夫多妻はイスラム教條に必要なるに非ず。イスラム教條が到るところ一夫多妻主義を蒔くと思はるゝは妄誕極れり。一夫多妻。此の國及吾人の教理には一大汚點なり。然れども或る他の場所に於ては利益あることもあら

んと述ぶるや。茲にノーノーく〳〵く〳〵初めて起る。彼れ語を續けて。こは單に其境遇する所に依るのみ。余も初めは諸君と同感なりしが。今飜然一夫多妻有益无害なることを認むと述ぶるや。再びノーく〳〵の反對起る。彼れ亦た確めて曰く。學理と實際を知らざるの人は。其善惡邪正ヲ判定する能はざるを知らざるべからず。然らば此國に於ける諸君井蛙の管見を以て。他國にあるの境遇を判定するを得ざるなり。余は敢て曰く。人若し善良清淨なれは、穩當なる精神を以て、一夫多妻を實行して可なりと。茲に到て聽衆一同ノーく〳〵と反

叫す。一夫多妻固より清淨なる博愛的精神たらざる可らず。諸君若し余の如く此問題を解せば。一夫多妻者も勿論亦たキリスト教家と名つくべしと云ふや。ノーノーく〳〵く〳〵潮の湧が如く。最早制す可らず。氏遂に口を箝して降壇す。博士フィールド氏演說あり。ジエームスブランド氏續て論文を朗讀し。伯爵ウオーストッフ氏「獨逸に於けるキリスト教の現況」なる演說をなす。其要旨に曰く。我獨逸は汲々として新主義を出すの國なり。我國實に改良の國にして。改良分裂して兩派となる。此際に當りて我宗教者の運動着々歩を進むる者あり。我邦

今日の問題は國立教會にして。教會は我邦政府より一層大なる自由を得んと汲々たり。日曜學校益、盛大。教會事業將來多望。云々。」

次に同志社社長小崎弘道氏の「日本に於けるキリスト教。其現況。其將來の企望」と云ふ論文なり。フィラデルフィヤの博士ボードマン氏之を朗讀す。其意に曰く。耶蘇日本に入りし以來。僅かに三十餘年。然るに驚くへき長足の進歩をなし。其信者の多き。宣教師が六十年を費やせし土耳其より尚ほ多く。其獨立教會の多きは。五十年間。二層三倍の多數の宣教師が働きつゝありし支那に於

けるより尚多し。我邦に於けるキリスト主義新聞雜誌。其數殊に夥しく。之が筆を取り文を草する者。啻に名目のみならず。實際上本邦人のみなり。其社說論文や。只宗教社會。文學批評的に日本に於て牛耳を取るのみならず。精神的眞理探究の領袖と云ふべし。其能く短日月にかくの如きを得る。世界何れの布教地にかある。我邦に於ける奇觀は。信者に女子より男子の多きこと也。初めて耶蘇教の我國に傳播されんとするや。人皆異同を問ふに暇あらず。又問ふことも知らざりしが。能く其源泉は一なれど、其依る所を異にする宗派、其數一にして足

らざるを知るに及んで。初めて吾人耶蘇信者合同一味たる能はざるかとの疑問は念頭を衝き來れり。爰を以て同宗異派中互に相反目し。筆舌相構陷する如きあれは。結果する所は信者を失ふにあり。尤も温順博愛なる者は。多く信者を得。尤も偏頗頑固なる者は。多く信者を失ふ。博愛合同は何人も欲るす所。望む所なり。吾人今より一歩を進め。相提携扶掖するの運動を務めは。其奏する所の功も亦從て著大ならん。吾人は種々の事を目論見て神意之を成就す。換言すれは吾人は建言し神父は裁定するなり。吾人の祈は汝の御國は來れり、汝の望は

天にも地にも異なることなく成るへしとにあり。此祈以て長へに傳へて變するなけん。云々。」

九月廿一日曇天　此日堀内靜宇氏寄送の論文及芦津實全師演説の日なり。博士バロース氏立て堀内氏の論文を讀む。益印度佛教靈蹟回復の大事業に身心を抛ッて從事しつゝあることを吹聽し。眞理を愛するの諸氏は。其奉する宗教の如何に拘らず。進んで一投足一擧手の賛助を與へて。先づ第一に佛教徒の團結を謀り。茲に四海同胞の端緒を實行せよと云ふにありき。續て壇に立ちし人は。多くは社會的、道德的害惡を除くは耶蘇教な

りと絶叫し。其巧なる辯舌と、其輕妙なる語辭は、聽衆を
して抃舞措く能はざらしむ。先づ第一にハーヴァード
大學教授ピーボディイ氏、意志高潔なる論文を朗讀して。
丁寧反覆資本と勞働なる問題と耶蘇教との關係を說
きたりしが、耶蘇其物。吾人の眼孔より見れば三文の價
値なきも。氏か深邃なる學術と勇勁なる筆舌は。之を生
きたる力として聽衆の耳底を打ちぬ。」
次にシカゴ大學教授ヘンダーソン氏其論文を朗讀す。
其問題亦同し。其言ふ所も大同小異なりしが。茲に寄妙
と云ふへきはう。の演題こそ異なれ。同一なる意味を布

衍せし論文がワシントン僧正キン氏に依りて講せら
れしことなり。此三名士期せずして互に同樣なる事實
を述へ來る。眞の奇觀と云ふべし。次にジェーンセラブ
ジーなる印度婦人登壇し。印度婦人社會の實況を訴ふ
と云へる題にて演說す。音聲微なれども、論理井然とし
て能く聽衆の喝采を博しぬ。其要に曰く。妾に伴はれて
一萬二千哩の天外異國に來れ。國土廣大、方言數種、上下
隔絶す。然れども、やさしき婦人の聲、一齊に叫んで曰は
ん。妾等は進まんとせり。智識を得るに汲々たり。靈魂的
の文明を得んとせり。乞ふ來りて共に妾等を助けよと

云はん云々。」

夫れより芦津氏の論文あり。博士バロース氏之を朗讀す。「佛陀」なる演題にして、三身の理より正覺不退轉のを詳述す。亦喝采を博す。意味を解せずして文章之れ讀むの人には。佛陀なる演題。元より乾燥無味なるべきも。能く聽衆の之を謹聽拍手するもの。蓋し當國思想の潮勢を見るに足んか。」

九月廿二日　雨霽る　此日ドクトルケーラス氏の家に佛教を談話す。」

九月廿三日　晴　宗教大會開會以來茲に殆と二週日。

漸々將に閉會に近からんとす。午後二時半會場に入る。當日の番組演題は。重に四海同胞主義也。演者凡十有餘名。其中尤も喝采を博せし者二あり。一はチャーチ、オブ、イングランドの僧都アルソレット、モメリー氏の論文にして。氏叱呼して曰く。天帝に嘉納さるべき唯一无二の宗教は。日常德行の宗教たらざるべからず。德行は天帝の吾に望む所なり。天帝の吾人に與ふる所のもの。智と德行とに外ならず。眞正なる宗教、何ぞ外形皮相の儀式、祈禱、讃美歌のみを以て足れりとすべけんや。要は德行如何にあるのみと。事因より平々凡々たれども。世界中

最大なる勢力を有せる國教に屬する教會説教師の口舌より溢れしと思へば。亦十九世紀思想海の一波瀾に非ず。や。次に壇に顯れし黒婦人（フアンニーウイリヤム女史也。）題して「亞米利加に於る黒人に宗教か與ふる所の賜は如何なるものか」と云ふ。（キリスト教の位地より云へば。女史の論文は第一に黒奴賣買の盛なるに當りて。如何に耶蘇教が、此不正手段を幇助するの媒介となりしかを指示して。今日の人種問題の肯綮に當る者と云ふへし。其論は如何に當時自由を箝禁束縛されし黒人が。天道の無情を怨み。天父を暴戾無道之れ樂む者と

思ふの已むなかりしかを明示詳述し。彼の黒奴以前に當りて。耶蘇教は一の攻戰守城、國土相爭ひ、異人種相食むの悪弊を防壓せずして。却て之れを進むるの器械たりしを切論し。終りに臨んで曰く。耶蘇教其の教祖の素志に法り、四海同胞、天帝の前には甲乙なきを證せば。進んで此黒人の爲めに社會上輔翼する所なかるべからず。否此れを以て弱肉强食の野蠻的利刀となすべからず。己れより進めるものにも。己れより以下のものにも。我身を愛するが如くし。愛と誠を推して接せざるべからず。今や世間同感の士多く。黒人を其教會員に加へさ

る如き教會牧師あれば之を攻擊批難を黑人種に送られたる宣教師の成效せざるは黑人種の頑迷なる爲めに非ず愛を欠けばなり誠なければなり利益なくして損害あればなり支那、日本、眞の道は一のみ同じ眞の道を求めながら兄弟相鬩ものゝ蓋し弟者の罪に非ずして兄たる者德行全からざる所あればなり諸君人を治めんと欲すれば先つ自ら治めよ黑人、黃人、みな諸君の兄弟姉妹として眞理の一座に相團欒の樂を受けんのみ云云以上墨と煤を以て造れる人形の如き此の女史より此の光燄萬丈の言を聞く亦快と云ふべし

九月廿四日日曜日　此日は各教會に於て夫々日曜說教のありし日なれば午前は大會を中止し午後より開會せしが昨日の暖氣に引き換へ細雨凄々陰風肌を刺すの寒天にも拘はらず聽衆滿場辯士五六名其中最も著しき者はワシントン府のカツリック大學校授フアーザーオーゴン氏及ニユーヨーク市のマーゾルコーレジエート教會の牧師神學博士ゼームスパーレル氏が讀みし二論文なり聞く兩氏嘗てインデヤナポリス市にありて互に其信ずる所を異にせるより從て面白からざる關係ありしと然るに今日圖らず各其演する所を

見るに。互に立脚の地を異にするのみ。更に一點の心に介するなき者の如し。オーゴン氏はローマンカゾリック にして。擘頭第一に曰く。諸君行て白亞城に行て閣龍が乘り來りし三艘の舟を看よ。彼の舟は實にローマンカゾリック教徒として新世界發見者コロンブスを乘せ來れり。初めてローマンカゾリックの種を持ち來れり。亞米利加は初めてローマンカゾリック徒によつて發見され。亞米利加國是の根原カゾリック教に依りて定めらる。今や一にローマンカゾリックと云へば。甚た耳障りなれども。余が所謂ローマンカゾリックとは。僞善的腐敗的のロ

ーマンカゾリックに非ずして。眞正清淨なるカゾリック教なり。否エスキリスト教なり。此教や。信教の自由を與へたり。亞米利加獨立の精神たり。奴婢解放の主唱たり。憲法の頭腦也。教育の源泉なり。先年大統領クリーヴランド氏、ローマ法王に送るに、當國憲法の一部を以てす。我國民眞の愛國者たる者は。眞正カゾリック教を右手にし、憲法を左手にして働かざるべからずと述べ。最後に曰く。カゾリック教會は。此の共和國に於ける法規秩序の最も強き根蔕也。若し亞米利加にして他日孤城落日半旗の翻々たるを見る如きあるも。凱歌を奏する者はロー

マンカゾリック教にあらざるべし。如何にとなれば。該教は亞米利加に於ける程宜しき布教地なく。亞米利加はローマンカゾリックの血涙にして。ローマンカゾリックは亞米利加の生氣にして。其關係仆れて共に止む者なればなり。云々。」

次にバーレル氏登壇。演題は亞米利加に及ぼせし宗教の力と云ふ。氏曰く。吾人をして神に感謝せしめよ。神は吾人に其愛子を與へ、教を與へたり。此の教傳へて今日に至り。益々光輝を放つ。殊に我國に光を放つ。諸君。火なきの教は教に非す。諸君。情欲の不降を焚き、煩惱の不降

を滅すの火力なき宗教は宗教に非ざるなり。諸君。吾人をして此火によりて吾人の罪を焚かしめよ。我亞米利加人は。宗教なる精神的滋養物なしには一日も立つ能はず。佛の名家トクイヴイルは云へり。アメリカはど耶蘇教の必要なるところなし。アメリカ人の靈魂は耶蘇の賜なりと。吾人をして眞正の耶蘇教者たらしたよ。言論の耶蘇教者たらずして、實行德義の耶蘇教者たらしめよ。世界の雄舌ウエブスターは云へり。余が理論も、余の叔父の日常の德行を見るに及んでは。又一言の言ふべきなしと。諸君。吾人をウエブスターの叔父の如くな

らしめよ。德孤ならず必す隣を照さん。云々。」

九月廿五日晴　寒氣殊に甚し。滿場聽衆盡く外套を蒙り。宛然野外集會の如し。只異なる所は帽を脫せるのみ。當日殊に目に立ちしはザンナ島のギリシヤ教大僧正なり。肥滿長大の幹軀に。被るに平日に倍せる厚さの衣裳を以てす。恰も布袋に厚蒲團を負はせし如し。亦た當日の辯士は。支那天津より來會せし牧師カントリン氏なり。身軀五尺に足らず。身に支那服を纏ひ。瓣髮を垂れ。一見支那人と異ならず。其口を開くや。口角泡を飛ばし。熱心燃ゆるが如し。其說く所は支那に於ける宣教事業

の成行なり。曰く。支那人は一般に精神空腹を感し居れば。此時に當て彼等天父の賜物たる清淨なる乳と蜜を與へざるべからず。孔教支那を益するもの一二に非れども完全せず。其完全なるものは、眞正なる神の愛と光によりて充たされたる耶蘇教なれば。此れを以て彼れを養はざるべからず。人動もすれは曰ふ。耶蘇教と孔教主義と相背反し大衝突を來さんと。然れども此衝突や、醒風血雨、天地黯淡たる者に非ずして。將に大德を以て小德を收め。大光を以て小光を吸收するのみ。相戰ふに非ず。相和するなり。相論するに非ず。相談ずるのみ。此所

謂衝突は、精神的改良の紀元なり。此の紀元は四海同胞實行の端緒なり。云々。」說敢て斬新に非れども。彼が熱心と、彼が其支那內地に於て嘗めし艱酸が聽衆より購ひ得し同感は。圖らず天地を震動するの喝采となれり。」

午後　黑色矮少なる中年伸士。頭に帛を項き。肩に肩掛けをなし。迅雷の如き激辭を揮ふて演壇に立つ者は。印度ジェーン宗代表者ガンダイ氏なり。氏は學者にして法學士なり。其演題ジェーン宗綱領と云ふ。終に臨み絕叫して曰く。先日ロンドンのペンラコスト氏我宗及我寺院の僧尼は不道德不品行なりと謂へり。余は本會は

四海同胞の端緒を開くの會たるを知れば。敢て彼れより非議せらるゝも。我より反駁するの妥當ならざるを知る。然りと雖とも。事一宗の耻辱に關す。豈之を雪がざるを得んや。眞理なりと自ら誇れるキリスト教者。近來何ぞ夫れ自稱ポールの多きや。此等の自稱ポール來りて印度に名を擧げんとすれども。遂に能はず。歸りて百方之を非議し。誣めるに不品行の汚名を以てす。嗚呼濁流滔々たるの天下。豈夫れ僞善者なからんや。我印度殊にジェン宗中、南部に於て不品行なるものもあらん。然れども彼れ等は眞正の宗教者に非ず。又彼れが言ひし

如く、我宗は藝者歌妓を我寺院内に横行跋扈せしむる者にもあらず。高く清く天を衝けるヒマラヤ山よりコモリン海峽に至るまで。眞正なるジエーン宗。豈斯くの如き者一人もあらんや。諸君乞ふ漫に辯を弄するものゝ爲に欺かるゝ勿れ。余をしてイソップ物語ヲ引用せしめよ。回教徒の行脚體。嘗てメッカに到らんとするの途中。船中にてポートギユース船に掠奪せらる。其内コーラン數部あり。ポートギユース人。これを犬の首に掛け市中を奔逸せしむ。後ちろのポードギユース人。土其古帝の臣下に捕へらるゝや。キリスト聖書あり。熱心なる回

教徒怨に報ゆるに德を以てして曰く。朽木は彫る可らず。彼等はコーランの價値を知らざる故に。斯の如き無法のことをなして恬然たりしなり。我等はコーラン及ひキリスト聖書兩者の價値を知るが故に。彼れ無智の人のなせしが如くにせずとの美談あり。余も亦言はん。自ら誇りて他を陷いるは。自らの德の足らざるを發表するのみ。云云。

九月廿六日晴　寒氣愈甚し。第一登壇せしはシカゴ大學教授ウイリヤム、シー、ウイルキンソン氏なり。他宗教に對するキリスト教の樣子と云ふ演題なり。曰く。余は

「著者曰ク。此一節ハ。自ラ之ヲ解スルヿヲ能ハズ」

他宗教の信者及其宗教の優劣を云ふ者に非ず。大凡ろ何宗教として救ひを説かざる者なし。然れども、ジーザスはジューズを除くの外。一切の教の説く所は虚偽なるを示せり。勿論如何なる宗教も種々なる眞理を含有するに相違なきも。未だキリスト教の如く完美せるはなからん。其眞理其物も。説法の如何によりて、大に其便益を異にす。虚言は虚言となる前に發見せられざるべからずと云ふ。佛教説明は讀まれたり。而して笑はれたり。此説明は責任佛教にありて佛陀に非ず。然れども、キリスト教は。虚言は發見されずんは虚言に非ずと云ふ

如き妄誕を教ふるの宗教をば。俱不戴天の仇讐と見るものなり。云々。」其説固より否なり。況んや我教理を誤認するをや。此人々にしてシカゴ大學の教授たる肩書を持つはプロフエッソルの價値も下落せりと云ふへし。」

附言　去る廿三日　ニューヨークの豪商ストラウなる人。遙に當市に來り。ダムマパーラ氏に三歸授戒を受け。正式に據て佛者となる。氏は多年心理學研究に從事し。遂に佛教に非ざれは安心立命の地を得る能はざることを認識し居れり。而して今回ダ氏の來米を幸ひ入弟せし者なり。

今夕七時半より印度、支那、日本の各佛教徒のみにてコロンビヤンホールに佛教大演説をなす。寒氣肌を刺すにも拘はらず。聽衆滿場。立錐の地を餘さず。ジェン宗の某氏土宜氏の演説草案を朗讀す。其大意左の如し。

淑女紳士諸君。一見信向を異にする如き諸君と余が一堂に會し。玆に余か佛教に關し幾分の御話の好機會を得たるは。豈又不思議の因緣にあらずや。思ふに此好機會を得たるは余か幸にして。諸君とても亦全く利益なしとせざるなり。余は今敢て一歩を進め。諸君に佛教と佛教か日本に對する關係を說き。諸君か

佛教結緣の功を全からしめんとす。智度論に曰く。諸佛の教に二法あり。一に教理の眞を說き。二に世道の善美を導くものなり。換言すれば前者は吾人の靈魂色體は外界の諸境と絕へず相關連し。而も無始無終なる眞理ありて宇宙に充滿し。因果の理法轉々反覆し。吾人の色心を支配するを云ふ。假令はキリスト教の天帝。儒教の大極。神道の天の御中主尊バラモンのボラカンマの如き。みな宇宙の眞理を表する爲めに立てしものなり。後者は吾人の色心幷に吾人外部の諸境に清淨の善美を普及し。地上の吾人をして眞如

なる者にて清淨善美を全からしめんと務むるものなり。耶教の如く佛教にも十誡あり。此の誡を奉して以て吾人々日常の行爲を善美ならしむべし。吾人の智德を完修し。飢犬餓狼相攻め相食む如き現社會をして。友愛の春風靄然たる天樂となすを得べし。是を以て佛教の全斑を窺ふべし。諸君。我佛教は眞理に就て他教と相爭ふものに非ず。他教にして同樣に眞理を說く者あらば。佛教は他の外衣を被ふれる同眞理なりと認め。其外衣の如何に關せず。其誰の說きしか、其誰の手になりしかを、胸襟を開て之を迎へ。共に相

べて淸携淨善美の功を全からしめんと務むるものなり。云々。」

次に登壇せしはダンマパーラ氏なり。氏自ら說を述べす。現世諸泰斗の說を集蒐朗讀す。曰く」

マックスミユーラー云はく。宗教なるもの。其界裏に英雄。豫言者。護法家を出すを止むる時は。其時こそ生命は絕へたるなり。其宗教は死せるなり。護法的英雄豪傑益輩出して。其教愈活氣あるものと云ふべし。思ふに現世紀の精神的戰爭は。三大宗教にあらん。即ち佛教、回教、耶蘇教なりと。サーウィリヤムハンター氏は其

着述印度帝國史に述べて曰く。佛陀か成効の秘訣は。人民に精神的の濟度を持ち來せしことなり。佛陀は報土往生は何人も得らるべく。其得らるゝや。想像的偶像にこれ依るに非らずして、己れ自らの行爲にこれ依ると說けり。佛陀が此說。宗教的四民階段を打破し去りて。天人の間に立てる御使を以て自ら居るバラモン教をして顏色なからしめたり。佛陀は罪苦濟度其他拔苦の樂、過去、現在、未來に於ける境遇は。みな己れ自身の行爲がなせる因果の轉り合せに外ならずと說き。以て精神に此の无盡无極の因果を應用し。

而して今夕蒔く所の種子。他日報ひ來ること必せるを以て。惡因惡果を來さゞるなく。善因善果を來さゞるなけれは。天帝にもあれ。偶像にもあれ。其結果を防遏すること能はざるなり。現世に於ける苦樂は。前世に於ける行爲の必定自然の報にして。現世今日に於ける吾人の行爲は。未來世に於て享くべき苦樂を決する者なり。衆生死すれは直に其行爲の善惡に依りて。一層高尙なる境界に轉生するものあれは。一層下等なる苦界に沈淪する者もあるべし。彼の幸不幸の原素となるものは。彼れか爲し來れる善惡の行爲な

り。この輪回の大法によりて。佛陀は此世界人に境遇の相違不等を說き去りて。一點の疑を止むるなし。然るにキリスト教は。善根功德を積んで天帝に謝すると云ふ。無智の小民以て之を欺くを得べし。未だ識者を濟度するに足らず。三世因果の妙法。又一點ゴッドの存在を要するなし。我行ふて我其果を受く。何者か是れより明燎なる者あらん。夫れ煩惱の鐵鎖を絕ち。我慾の縲絏を逸するもの。生きては完全なるアラハントと也。死して未來永劫の安樂を享くるにあり。佛教の大主眼は。肉情を制し。邪見を止め。積功修德。以て佛

陀の境遇に到るにあり。佛陀は佛師に事へ。兩親に孝を盡し。我欲を制し。他人に親切を施し。衆生を濟度し。四法を演へ。其弟子に敎ふるに自ら正路を修し。自ら助くるのみならず。又他を助けざる可らずと說けり」と。是等の諸說を冒頭に置きて。詳細に佛敎を說けり。」最後に余が論文の朗讀あり。ダンマーパーラ氏之を擔任す。

諸君。此の演壇に佛敎徒の外一の異敎者を見ざるは。何たる榮光ある今夕ぞや。眞理の美聲を聞くが爲めに來れる賢明かくの若き聽衆の前に立ちて一場の

演說を試む。何たる好機ぞや。而して余か演說は「戰に代ふるに和を以てす」と云にあり。余は佛教家なり。然れども諸君。其信教を異にし。其文化の程度を異にし。其人種の異れる人より發言さるゝを以て。余の說を擯斥する如き小心狹量のものたるなかれ。夫れ眞理は一なり。眞理の光の前に立つては。四海万民敢て輕重ある可らず。須らく平等均一なるべきなり。今度の宗教大會が、斯く如き大成效を得しは。諸氏の贊成其宜を得たるものと。諸君に鳴謝せさるを得ず。然れども此會合は。僅かに四海同胞の端緒を開きしものゝ

み。今にして甘んじて之を顧みるなくんば。花なく、實なく。其結果希望は水泡畫餅に歸して了らんのみ。吾人をして相提携扶掖、日夜汲々として大希望の完成を務めしめよ。忍耐刻苦は功を買ふの代價なり。代價少なければ品物元より惡し、忍耐を以て障害に勝つに非らずんば。何爲そこの優美なる大希望の光を放たしむるを得んや。此大目的は何物ぞ。即ち四海萬民共同家族を作ることなり。此希望決して空中の樓閣に非らず。既に三千年の昔時に於て。佛陀は諸河海に入れば皆鹹となり。四民佛に入りて平等なりと說き

しより印度大帝國の階段宿弊を洗滌して春風駘蕩たる團欒家族を作れり豈獨り佛のみならんや耶蘇も孔子も皆同愛同感を說けり吾人々類誰か之に異議を唱ふる者あらんや只要は成否如何にあるのみ然らは吾人眞の佛徒をして眞のキリスト教徒をして眞の孔子徒をして眞の愛國護法家をして無辜を恤み弱者を保護するの善德を積み以て眞の兄弟家族を作爲せしめよ吾人をして此大目的を成就し此宗教大會をナイヤガラの瀑布に比し廣大なれども結果なしと罵笑せし頑固人士をして顏色無からし

めよ吾人眞理を愛し眞理の爲めに身心を犧牲に供する成効が眞理の屋上に華を咲かすまでは決して斃れて止むべからざる也今や吾人此相愛主義の現形とも云ふべき萬國公法を有す此の公法此の博愛主義を實行するに大に與りて力あるものなり然れども之れを一層大なる規模に擴張し劍戟相見へ炮艦相接するを止めて握手相祝し禮讓相歡はしめよ大凡そ戰は如何して起るか吾人理想の動物界何故劍に訴へずんは事を處するの法なきか戰なる者如何なる口實あるも元とこれ決して好むべきものに

非ず。戰なる者は。強者の弱者を壓する者にして。強者益なく。弱者損失到らざるなし。戰なる者は。兄弟中の共喧嘩なり。吾人動もすれは曰ふ。四海同胞と。是の如く相攻め相擊つの忙しき。兄弟何そ望むべきものならんや。歷史を繙讀するに。野蠻極まる戰爭談ならざるなし。眞理を愛し。平和を希ふ者。誰れか之を讀んで嗟吁大息を發せさらんや。歐洲今日の現狀を見るに。三國同盟。何の爲に起り。佛露同盟。何の必要かある。平和を維持する爲めか。相愛主義を實行する爲めか。希くは然かあらんことを。何んとなれは今日の如く邊

疆兵備をのみ急にすれは。社會奔命に疲れて他を顧みるに遑まなけれはなり。衣食足りて禮節を知る。嗚呼如何にして彼の血雨腥風、慘憺たるの暴天侯を變して平和相愛の春光に逍遙せしめんか。相愛の春光とは眞正の宗敎なり。宗敎は善美の源泉なり。慈悲の根源なり。吾人は文化、宗敎、人種、相互の間に門界を置くべからず。吾人は共にこれ眞理の胸中に含まれたる姉妹たり。兄弟たり。諸君。余輩耶徒にあらざるを以て去れと云ふべからず。吾人は黃色人種を以て去れと云ふべからず。吾人をして眞理の眞正なる愛娘た

らしめよ。愛子たらしめよ。

九月二十七日　夕頃より宗教大會閉會式に臨む。到れば七時頃。技術館の前面雲霞の如き大衆。其雜閙一方ならざりし。蓋し入場券撿閲掛りに於て混雜を制せん爲め。堅く前戸を鎖し五百人宛を入れしめたりしが。余等は掛りの人に案内されて後門より入場す。場内既に數千人の聽衆を入る。八時に至りてはコロンビヤンホール又た一人を容るの餘地なし。是に於て更にワシントンホールを開て茲に聽衆を入る。又忽にして溢れて收むべからず。最早刻到れば。已むなく後れ馳に到りしは

其人の不幸と諦らめしめて。全く出入口を閉鎖す。然れども。戸外の人衆。敢て去らず。蓋し辯士の歸へる際。責て握手目禮告別の情を酌み度しと。其れを待ち居る者と知られたり。預しめ當夜祝詞を述ふる者を二十四名と決し。ロンドンメモリー氏第一壇に登る。是より先き音樂唱歌あり。唱歌は正面及左方に女子隊凡そ七百人。右方に男子隊凡四百餘名。君が榮光の曲を奏し。相唱へ相和し。洋々穆々。聽衆肅然、今左に數氏の祝詞を摘錄す。

第一　ロンドンのメモリー氏

天下誰れか一箇人の仕事としてバーロス氏の如き

大事業をなせしものあらんや。蓋し空前絶後。これ大會の起りしアメリカ人が先登第一たるの功を。竹帛に垂れて沒すべからず。アメリカ既に空前の大博覽會を開きし榮譽を荷ひ。今亦精神的先導者の榮光を受く。後來益々諸方に此種の大會あるべきも。「アメリカ」開山たりしと云ふの功名は。永世不朽ならん。アメリカ萬歲。シカゴ市萬歲。」

第二　印度マズムダー氏

諸君。此の鬚髯掬すべきの宗教大會も。今夕限り終らんとす。吾人は朝夕旦暮、他事を抛て十七日間諸君と

こゝに相見て相喜びしが。最早今夕限りと思へば。轉た哀の情に堪へざるなり。然れども天帝は一なり。濟度は一なり。山海萬里を隔つるも。希くは彼れによつて消息相通ぜん。諸君萬福なれ。」

第三　露國皇族ウオラスキー殿下

諸君。余が當會に臨みし以來。滿幅の赤心を推して余と共に喜怒哀樂の同感を表したり。茲に此大會の成効を祝し。併せて四海萬民共に眞正相愛する兄弟たるの日を屈指相待つ。人曰はく。アメリカの天使、ロシヤの猛獅と。此の天使此の猛獅、相會して相助くる樂

には何の快か之に如かん。余は兄等のみならず人種異同を問はず兄弟として相樂まん。」

第四　支那書記官彭氏」

諸君。兩國の葛藤は。兩國使臣政府直に計はん。余は宗教大會に臨むもの。豈に事の本末を明にせずして、諸君に今日まで優遇を祝せざるの理あらんや。貴國に御厄介になり居る我國人。正直遵法の者多し。キリストは吾人に教へたり。汝自ら兄弟を愛するのみならず博愛なれと。爾に出る者は爾に歸る。希くは彼をも愛せよ。諸君若し我國に來らば。上流社會より余が諸

君上流の人に受けしと同一の歡待を受けん。兩國の惡感情晴れ去りて。提携相助け。兄と呼ひ弟と喜ぶ間柄とならんことを希望し。諸君の幸福繁榮を祈る。（大拍手大喝采）」

第五　日本佛教徒平井氏」

大會漸く終らんとして寒天將さに襲ひ來らんとす。吾人は久しからずして貴國を去らんとす。去るに臨んで敢て諸君より受けし優遇歡待を謝し。併せて此の大會の成効と。此の成效を來せし諸君の盡力と。贊同を祝し奉る。」

第六　日本神道柴田氏」

諸君の好意を祝し。敢て八百萬神の諸君を保護せんことを祈る。」

第七　天津のカントリン氏」

第八　ダンマパーラ氏」

諸君。余が受けし好意優遇に對して。四億五千萬佛徒の爲めに感謝す。諸君忍耐して佛教の話しを聞けり。尙ほ進んで聞き學び修めよ。敢て會長秘書官諸君の幸榮を祈り。諸君の萬福を望む。」

第九　……」

第十　印度の「ガンダイ」氏登壇す。第十一アフリカのプリンス演說す。(以下略す)

最後にバロース氏の謝辭あり。左の如し。

余カ友ダンマパーラ氏曰はく。天帝の感喜シカゴに集れりと。又モメリー氏曰はく。余はシカゴ滿城の喜樂が天帝に達せしことを望むと。實に然り。天帝の保護より此の世界各邦の大會を催し。此の大會の成效を致せるを喜ぶ。今や閉會に際して愁嘆希望交〻逼る。諸君の贊助を以て此の成效あるは。三年以前より余が上に立ち、余か萬事其指揮を受けし會長ボンヂ

|氏の功果は決して忘るべからず。希くは彼れに謝せよ。云云。茲に各國代表者の悉なく御歸國あらんことを祈る。」

夫れより會長の演說又巧妙なる者。拍手喝采湧くか如き中に立つ。「

余に非ず。余に非ず。此の大効を奏せし者は天帝なり。余か働きしもの天命のみ。幸に諸君の協賛を見て。此の大會の成効を見るを喜ふ。云云。」

三名の婦人あり。第一　ナヤーレスヘンロチン女史なり。

此の空前絶後の大會に婦人の代表者が列席せし幸榮を喜ひ。諸君の萬福を祈る。」

次にホイ女史。今年七十五歳。曰はく。」

諸君に何か御土産と思ひましたが。何にもありません。只心斗りの御禮丈を以て來ました。」

(以下略之)

左の佛教傳通概論は。著者か鈴木貞太郎氏に英譯せしめ。紐育ドクトル、エ、エル、ハミルトン氏の檢閲を經て後ち。米國に於ける一二の學術雜誌に寄贈せしものなり。今錄して本篇の附錄となす。

熟々惟るに。南閻浮提正中の土に一大聖人出るあり。所謂治めされども亂れず。言はざれども自ら信ぜられ。化せされども自ら行はれ。蕩々乎として民能く名くることなし。是を吾が大教主釋迦牟尼世尊と曰ふ。世尊始の名は悉達多。吾が神武紀元前三百六十九年（周昭王二十六年甲寅四月八日。西洋紀元前一千〇二十七年）中印度迦毗羅幡萃都國に於て生る。

父を淨飯王と曰ひ。母を摩耶夫人と曰ふ。幼にして聰明叡智。長するに及て事に感し入道の志を發す。遂に妻子珍寶及び王位を抛ち。塵世榮辱の繭窩を脱し。靜夜犍陟に鞭て驀爾として曠劫の愛河を越へ。青山に紺髮を斷ち。忍で阿羅邏伽蘭の二仙に師事す。以爲らく此處猶究竟の境に非ずと。去て伽耶山の烟蘿に入る。尅苦六年。鹹鹺口に投せず。麻麥微に氣を續く。此時若し牧牛女難陀波羅の糜を獻ずるなくんば。殆と露地に餓死せん。時なる哉。臘月八日の曉。東向明星を瞥見して。忽然として阿耨多羅三藐三菩提を證悟す。」

是に於てか世尊金剛座上寂滅道場を起たゞ。海印三昧に住して。三七日法身大士の爲に華嚴一乘の妙經を演ぶ。然れども中下の機類は之を聞て聾の如く啞の如し。所謂唱へ彌高ふして和する者彌少なる者なり。後ち波羅奈國鹿苑に之て。四諦の法輪を轉するを始とし。十六國に跨りて因緣所生の實理を談し。主として外道執神の妄說を打破し。四姓互抑の惡弊を矯正す。殊に三伽葉、舍利弗、目健連等の首領が。一萬二千の婆羅門教徒を率て。翻然として佛に歸したるは。正に此の時代にありとす。敎化十二年。佛光漸く暘谷に輝く。然れども是尙人天

小乘の說のみ。尋て毘耶城、楞伽山、忉利天、祇陀園等の各處に於て。八年の間。維摩、思益、楞伽、金光明、大集、勝鬘等の方等經を說く。是即ち三乘共學の法なり。後ち又二十二年の間。十六會を重ねて。摩訶、光讃、金剛、大品等の般若を談ず。是固に二乘不共の敎なり。遂に靈鷲峯に於て。八ヶ年の間。唯有一乘の法華經を說き。以て出世の本懷を表はす。是に於てか三藏都て具はり。七衆悉く化す。」

末後跋提河の邊、遮羅雙樹の間に於て。將に般涅槃に入らんとして涅槃經を說く。說了て示寂す。實に吾が神武紀元前二百八十九年（周穆王五十三年壬申二月十五日西洋紀元前九百四十九年）なり。

唐の太宗皇帝曰く。夫れ聖敎を顯揚することは。智に非れば以て其文を廣むること無く。微言を崇闡することは。賢に非れは能く其旨を定むること莫し。蓋し眞如聖敎は。諸法の玄宗。衆經の軌躅なりと。偉なる哉言や。初め世尊の世に出るに丁てや。印度從來の婆羅門僧侶は。其の神裔を恃て跳梁跋扈至らざる所なく。九十餘種の外道は。各々臆見を逞ふして互に相ひ搏擊し。四姓の壘壁、彌々嵩ふして。社會の道德、增々卑に就く。今にして之を望めは。往昔の印土は宛か宗敎哲學の一大戰場なりし。世尊此秋に起て。悲智圓滿の大幟を建て。四衆を糾合し

て以て魔軍を逐ひ。象駕崢嶸。向ふ所敵なく。遂に五天を席巻して靈性界の安寧を致したるは。恰も太陽一赫。妖霧其蹤を留めざるに似たり。太宗の讃詞。豈に溢美ならんや。」

世尊滅後。直に三藏聖經結集の擧あり。（佛滅後四百年に至るの間合せて四回の結集あり事繁今略す）爾來大迦葉より阿難、末田地迦、商那和須、憂婆毱多の諸師に至るまで。凡そ百餘年間は。親傳面受。法水瀉瓶す。中に就く憂婆毱多は是れ僧中の麟鳳。道德天下を聳動す。況や檀越に阿育王の英邁なるあり。風雲際會して以て大に佛法王法振作す。時に毱多の上足に

五人あり。各々所見を負ひて。茲に一律藏を分て五部となす。（曇無德部、薩婆多部、彌沙塞部、迦葉遺部、婆麤富羅部）然れども是唯々律藏の小異にして。未た宗義に大差あらず。」

尋て二百年の初には。摩訶提婆が五事の異說行はれ。茲に肇て大璞將に散せんとするの兆を現す。即ち小乘の佛法は一變して上座大衆の兩部となり。三百年の初には。再變して九部（大衆部、一說部、說出世部、雞胤部、多聞部、說假部、制多山部、西山住部、北山住部、）の大衆部を出たし。三百年の末へ四百年の初めには。三變して十一部（說一切有部、雪山部、犢子部、法上部、賢冑部、正量部、密林山部、化地部、法藏部、飲光部、經量部、）の上座部を出すに至る。斯の如く小乘諸部の分裂を釀

し。異見相容れざるの弊は。偶々以て彼れ婆羅門教徒を
して屈蠖伸びんと欲するの好機會を獲せしめたり。然
れども此時幸に内には脇尊者の人天に木鐸たるあり。
外には迦膩迦王の法城に金湯たるあり。相扶て猶佛法
の慧命を紹隆せしが。五百年に至ては。小乘の法門酷し
く退敗したるの虚に乘して。婆羅門教は又大に其氣燄
を吐けり。蓋し世尊滅後四百年間は。小乘繁興の世紀に
して。大乘は未だ全分の發達を見ざりし。」
降て六百年に逮て。大心の龍象世に出づ。即ち馬鳴菩薩
是なり。菩薩憤て眞如法性の玄理を宣揚し。以て外道の

邪見を挫き。小乘の陋見を挫く。其功絶倫。人稱して第二
の佛なりと謂ふ。是より大乘漸く盛なり。七百年の始に。
又龍樹大士の起るあり。馬鳴創設の鴻業を承けて。增々
正法を大成す。古來師を崇んで佛法の中興、八宗の太祖
と曰ふ。敢て過稱とせず。龍樹下に俊髦二人あり。一を龍
智と曰ひ。一を提婆と曰ふ。俱に與に破邪顯正に力む。而
して其極提婆は遂に外道の毒手に斃れて已むに至る。
以て當時宗教の軋轢の慘なりしを知る可し。後ち九百
年には。無着、世親の弟兄出つ。天下の二甘露門なり。而し
て兄は始より專ら慈氏直傳の大乘を提唱し。弟は元と

小乘の論師なりしが。後ち之を捨てゝ全く大乘を荷擔す。要するに馬鳴より茲に至るまで。凡そ三百年間は。大乘旺昌の氣運なり。然るに其後千百年の頃。護法、清辨の二論師ありて。各々有空一偏を抱持し。一大乘を判拆して矛盾交々排す。後又四五百年の交。佛婆の法戰寧歲なく。而して佛法屢々敗を取り。窮弩亦振はず。是より以后三四百年を經過するに及て。回教軍大に猖獗を印度に逞ふし。佛法は終に父母の國を逐はれ。外に向て遠謫せらるゝに到れり。」

經に曰く。我涅槃の後ち。後時後分後五百歲。是の如き甚

深の經典。東北方に於て大に佛事を作さんと。金口の懸識。豈夫れ空からんや。佛滅後凡そ千十六年の頃（西洋紀元後百年頃）即ち支那後漢永平十年丁卯。明帝一夜金人あり空に飛て至ると夢み。乃ち大に群臣を聚め所夢を卜はしむ。通人傅毅奉答す。臣聞く西域に神あり。其名を佛と曰ふ。陛下の夢みる所。將た必ず是ならんと。帝以て然りとなし。即ち郎中蔡愔博士弟子秦景等を遣はし。天竺に往て佛法を尋ねしむ。愔等彼處に於て摩騰、法蘭に遇ひ、乃ち要して漢地に還る。是を佛法東漸の嚆矢とす。」

爾來佛法は一瀉千里の勢を以て。姚秦及ひ蕭梁の世に

流はり。李唐趙宋の代に至て頗る浩渺を極め。元明の朝には沈澱の狀を呈し。清朝に及んで大浪殆ど頽るると雖も。其喇嘛宗の如きは。今猶北方に瀰淪す。」

蓋し後漢の永平中。摩騰、法蘭始て梵經を齎し來てより。元の至元年代に達するまて。支謙、羅什、善無畏、法顯、玄奘、義淨等、梵漢該通の三藏法師踵を接して輩出したる者。凡そ百九十四人。經律論の飜譯せられたる者。概ね五千五百四十六卷あり。亦盛なりと謂ふ可し。支那の所謂十三宗（毘曇宗、三論宗、成實宗、律宗、涅槃宗、地論宗、淨土宗、禪宗、攝論宗、天台宗、法相宗、華嚴宗、眞言宗、）は皆姚秦より李唐の間に於て勃興し。互に其美を恣にす。且つ

當時支那の文物にして僧侶に依て竺土より輸致せられたる者。亦甚た夥とす。」

抑も佛法の吾朝に傳來せしは。實に世尊滅後千五百〇一年（西洋紀元五百五十二年）即ち吾欽明帝十三年十月なりとす。是よりも先佛法は既に百濟國に行はるゝこと年あり。時の國主聖明。始て佛像經卷を以て吾邦に貢獻す。其詞に曰く。是法は諸法の中に於て最も殊勝となす。周公孔子も尚知る能はす。能く無量の福德を生し。無上の菩提を成辨すと。而して當時物部中臣等盛に排佛を唱へたるにも拘らす。豐聰太子出るに及て。所謂篤敬三寶の語は。竅

乎として國家憲章の中に加はる。上、王公より下、士庶人に至る迄。奉して以て信敎の龜鑑とせる。後ち孝德帝の御宇に。道昭大德始て入唐してより。佛敎海外交通の路茲に闢け。高僧往來の蹤恒に絶へず。宗風交々揚る。即ち三論、法相、華嚴、倶舍、成實、律の六宗は（三論、倶舍、成實、今廢）推古帝よりの光仁帝の間に開けて。盛に古京に行はれ。天台、眞言の二宗は。桓武帝の朝に起て。大に平安に布く。爾來淨土、禪、眞宗、日蓮等の宗派。隨て出て隨て行はれ。新陳代謝して遂に現今十二宗三十八派の多きを成す。」

夫れ佛法は心宗なり。若し奪て之を論せば。實際理致未

た曾て一塵一法を立せず。與へて之を論せば。八萬の法門無量の妙義あり。豈に十二宗三十八派のみならむや。凡そ一切群生機、大小を分ち根、上下を隔つ。此機根の差別不同なるは。即ち佛法の施設。其方一に局せざる所以なり。世尊曰く。佛は大醫王の如く。病に應じて藥を與ふと。是故に今の各宗專門に通せんと欲する者は。先づ一佛法の大意に達せざる可らず。而して佛法の大意。一言以て之を蔽へば。曰く。開佛智見是のみ。

夫れ一歲紀に非れば。以て萬化の功跡を終ふることなく。一佛法に非れば。以て各宗の專門を統ふることなし。

然り而して春夏秋冬の令は別なりと雖も。其別ならさる所は同一歳紀なり。頓漸偏圓の理は別なりと雖も。其別ならさる所は同一佛法なり。且つ歳は春夏秋冬ありて四序其歳を成すこるを知らす。法は頓漸偏圓ありて四教其法を彰はすことを知らす。是の如くなれは乃ち知るへし。別に即して同。同に即して別。四も一を離れす。一も四を離れさることを。今の各宗專門。一々其途を異にして。而かも其轍を同ふする者。豈夫れ偶然ならんや。」是の如く佛法は夙に印度に起てよ。年を閱する殆んど三千年。宗教世界を三分して今尚其一を有つ。其始め

印度に在ては。婆羅門教及び九十餘種の外道と相戰ひ。血を流かさすして一たひ蓋代の勝を制し。中ころ支那に來て。又儒道二教と四敵して。曾て敗を取らす。後ち吾日本に入るに及て。優に皇道を翼贊して善く國體と相應し。以て今日あることを致せ。其間世道の消長に伴ふて。佛法屢々通塞し。世道も亦佛法の否泰に依て幾度か弛張せしと雖も。之を要するに吾邦中古の文明は。佛法に因て煥發せられたる者。甚た鮮しとせす、乃ち學問に、美術に、風俗に、慣習に、意匠に、言語に、倫理に、道德に、佛法の功與て居多なるは。蓋し掩ふ可らさる事實なり。」

以みるに佛法の眞理とする所は古今不磨、内外一貫なるを。日本の各宗は特に日本的道義の精粹を保つ。亦た印度支那の陳態故套に安んせざるなを。今や東西の學士識者にして指を法味に染んと欲する者日に益々多きを加ふ。然れども一は大乘高妙の理想に偏するか故に動もすれは木に緣て魚を求むるの奇を呈し、一は小乘淺近の事迹に黨するか故に或は株を守て兎を待つの愚を免れず。彼れ大乘を呼て非佛說なりとし、我れ小乘を指して違正法なりとす。然れども共に是れ鳥の雌雄を爭ふに過きず。嗚呼佛法の性海は浩瀚なり。各

宗の心源は深邃なり。豈偏見局識者の能く其蘊底を盡す所ならんや。」

明治二十六年十一月十七日印刷
明治二十六年十一月二十日發行

著者兼發行者　神奈川縣相模國鎌倉郡小杉村大字山ノ内
圓覺寺住職　釋宗演

印刷者　東京市京橋區八官町十九番地忠愛社
武田文八

發行所　東京市芝區愛宕下町四丁目一番地
鴻盟社

70
225

70
225
Ⓜ

013742-000-6

70-225

万国宗教大会一覧

宗演／著

M26
ABA-0228